

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

農 薬 抄 録

有機銅
(殺菌剤)

(作成年月日)

平成 25 年 6 月 20 日改訂

(作成会社名)

アグロ カネショウ株式会社
サンケイ化学株式会社
日本農薬株式会社

(作成責任者・所属)

--

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

目次

I. 開発の経緯	共 1
II. 物理的・化学的性状	共 2
III. 生物活性	共 10
IV. 適用及び使用上の注意	共 14
V. 残留性	共 41
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	共 133
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	共 155
VIII. 毒性	
<毒性試験一覧表>	毒 1
1. 原体	
(1) 急性毒性	毒 8
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	毒 17
(3) 皮膚感作性	毒 19
(4) 急性神経毒性	毒 21
(5) 急性遅発性神経毒性	毒 22
(6) 亜急性毒性	毒 23
(7) 21 日間反復経皮投与毒性	毒 46
(8) 90 日間反復吸入毒性	毒 47
(9) 反復経口投与神経毒性	毒 48
(10) 28 日間反復投与遅発性神経毒性	毒 55
(11) 慢性毒性及び発がん性	毒 56
(12) 繁殖毒性及び催奇形性	毒 114
(13) 変異原性	毒 139
(14) 生体機能影響	毒 151
2. 製剤	
(1) 80%水和剤	毒 163
(2) 35%フロアブル	毒 185
(3) 10%粒剤	毒 202
参考データ	毒 212
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解	
<代謝分解試験一覧表>	代 1
<代謝分解物一覧表>	代 3

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

目次（続き）

1. 動物代謝	代 4
2. 植物代謝	代 13
3. 土壌中動態	代 18
4. 水中動態	代 23
5. 土壌吸着性	代 27
参考資料	代 29
代謝分解のまとめ	代 32
動物及び植物体内並びに土壌及び水中における有機銅の想定代謝経路	代 34
代謝分解の概要	代 35

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

I. 開発の経緯

有機銅（一般名：オキシ銅）は、1880年 Bedall 及び Fischer によって合成され、当初はキャンバス、皮革、紙、織物、木材、ロープの防黴材として用いられた。1940年代に米国陸軍が木綿繊維の雨、紫外線、泥等による強度低下を防ぐ目的で用いてから、その使用量は増加した。

農業用としては、1946年に Gamma Chemical 社が農産物用の箱、カゴ、瓶に使用することで、黴、りんごの黒星病の防除に実用化された。

わが国にはフランスのラ・キノレイン社から、麦の種子消毒剤として1960年（昭和35年）に紹介され、有機水銀剤にまさる特長を見い出すために果樹、野菜などあらゆる方面で試験が開始された。

最初の農薬登録は1964年（昭和39年）「なしの黒斑病、黒星病」、「ぶどうの晩腐病」に18%水和剤（ペースト）が登録された。1969年以降、みかん、りんごを中心に水和剤が使用され、病害防除の基幹防除剤として評価されている。

有機銅剤はその要望を満たすものとして各種の作物の病害防除に高く評価されるようになった。

その特長を要約すると次のとおりである。

1. 各病害に総合的に有効であり、選択性の高い薬剤の使用によって突発するマイナー病害の発生を抑制する。特に有効薬剤が少ない細菌病害が発生する農作物には必須の基本防除剤である。
2. 殺ダニ剤、殺虫剤、他の殺菌剤など殆ど他剤と混用可能であり、酸、アルカリに極めて安定である。
3. 抵抗性の発達した事例がない。他剤で抵抗性が生じた病害の防除にも有効に使用できる。
4. 作物の生育収量、時には品質にプラスの効果がある。薬害の出やすい時期の防除に好適である。

なお、海外では、韓国（作物：りんご、なし、かんきつ、とうがらし等）、台湾（作物：うり類、きゅうり、なし、メロン、びわ、茶、レイシ、ヒユナ、ぶどう、かんきつ、ゴレンシ、ラン）及び米国（木材の防腐剤）等にて有機銅が登録・販売されている。また、申請者（アグロ カネショウ(株)、サンケイ化学(株)及び日本農薬(株)）が開発中の国はない。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 一般名

和 名 : オキシシン銅 (ISO)
有機銅 (MAFF)
英 名 : oxine-Cu (ISO)
oxine-copper (MAFF)

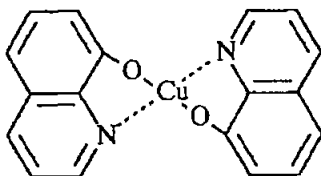
2) 別 名

商 品 名 : キノンドー (アグロ カネショウ)
ドキリン、オキシンドー、バッチレート (日本農薬)
サンキノリン (サンケイ化学)

3) 化学名

和 名 : 8-ヒドロキシキノリン銅 (MAFF)
ビス(キノリン-8-オラト)銅 (IUPAC)
ビス(8-キノリナト- $\kappa N^1, \kappa O^8$)銅 (CA)
英 名 : copper 8-quinolinolate (MAFF)
bis(quinolin-8-olato)copper (IUPAC)
bis(8-quinolinato- $\kappa N^1, \kappa O^8$)copper (CA)

4) 構造式 :



5) 分子式 : $C_{18}H_{12}CuN_2O_2$

6) 分子量 : 351.83

7) CAS. No. : 10380-28-6

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関/実施年
1) 外観・臭気	暗黄緑色・粉末固体・無臭	官能法 1999年
2) 密度	1.687 g/cm ³ (20℃)	比重瓶法 (OECD 109) 1999年
3) 融点	>300 ℃	毛細管法 (OECD 102) 1999年
4) 沸点	熱分解のため測定不能	示差熱分析法 (OECD 103) 1999年
5) 蒸気圧	4.60 × 10 ⁻⁶ Pa (25℃)	蒸気圧天秤法 (OECD 104) 1990年、GLP
6) 溶解度 ①水	1.04 mg/L (20℃)	カラム溶出法 (OECD 105) 1999年
②有機溶媒 ヘキサン トルエン ジクロロメタン アセトン メタノール 酢酸エチル	0.17 45.9 410 27.6 150 28.6 mg/L (20℃)	フラスコ法 1999年
7) 解離定数	pka 4.29 (24.5℃)	分光光度法 (OECD 112) 2000年、GLP
8) 分配係数 (n-オクタノール/水)	log Pow 2.46 (25℃)	フラスコ振とう法 (OECD 107) 1990年、GLP
9) 生物濃縮性	試験省略	分配係数が 3.5 未満
10) 土壌吸着係数	測定不能	(OECD 106) 1994年
11) 加水分解性 pH 5 pH 7 pH 9	t _{1/2} : >1 年 t _{1/2} : >1 年 (25℃) t _{1/2} : >1 年	(OECD 111) 1992年
12) 水中光分解性 滅菌蒸留水 自然水 滅菌自然水	t _{1/2} : 14 日 (25℃) キセノン t _{1/2} : 2 日 ランプ 870W/m ² t _{1/2} : 1 日 (300~800nm)	平成 2 年暫定指針 1992年
13) 熱安定性	300℃以上で分解 (昇華)	TGA 法 (OECD 113) 1988年
14) スペクトラム*	次頁以降に UV/VIS、IR 及び MS のスペクトルを図示する。NMR は有機溶媒に対する溶解度が低いため、有機銅の構造を帰属できる ¹ H-NMR スペクトルが得られなかった。	UV/VIS (OECD 101) 1999年

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

図1 紫外／可視吸収スペクトル

使用機器：二光束式分光光度計 UV-2200 (株式会社島津製作所)

測定方法：OECD 101 法

セル：石英セル(光路長 10 mm)

使用溶媒：中性 メタノール+蒸留水(9+1)、酸性 メタノール+1M HCl(9+1)、

アルカリ性 メタノール+1M NaOH(9+1)

測定範囲：200～750 nm

溶媒	λ_1 nm	$\log \epsilon_1$	λ_2 nm	$\log \epsilon_2$	λ_3 nm	$\log \epsilon_3$
中性 (pH 6.5)	388.5	3.71	256.5	4.79	206.5	4.64
酸性 (pH 0.9)	364.0	3.53	252.5	4.86	203.5	4.41
アルカリ性 (pH 13.4)	387.5	3.73	256.5	4.78	230.0	4.35

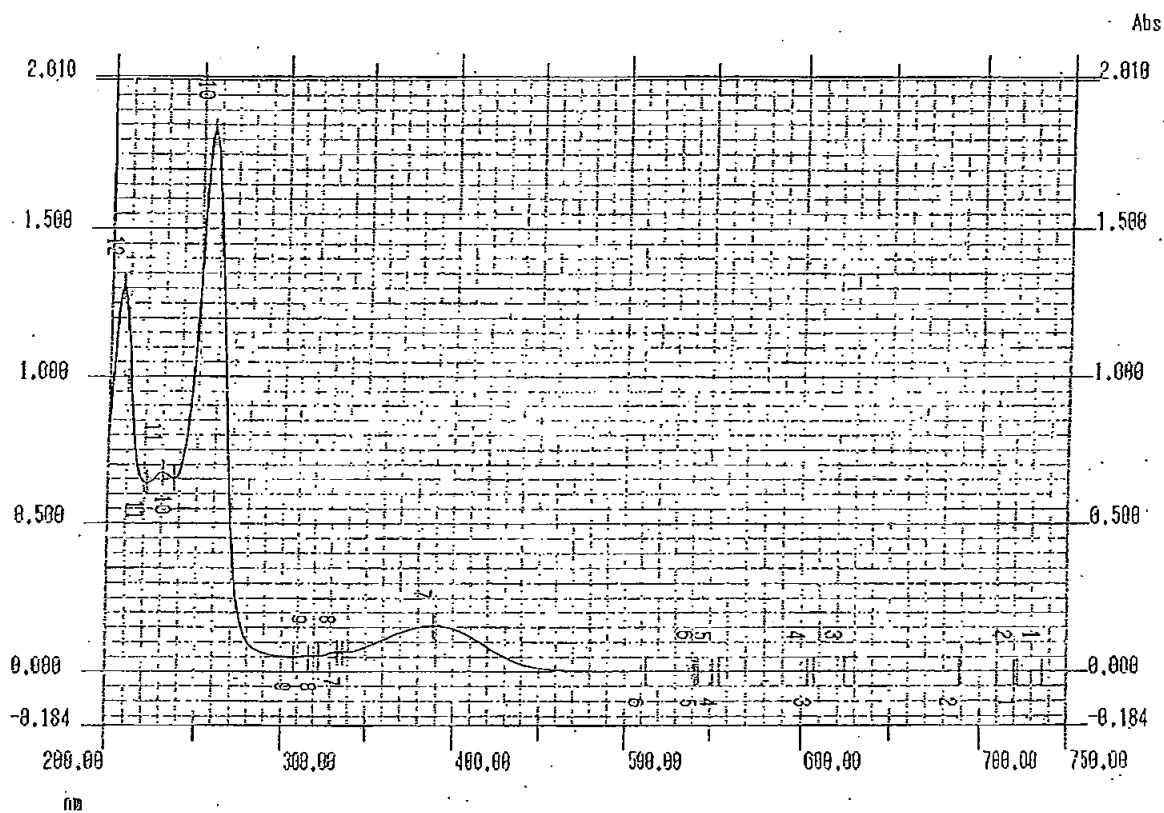


図1.1 有機銅純品の中性条件下のメタノール中 UV/VIS スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

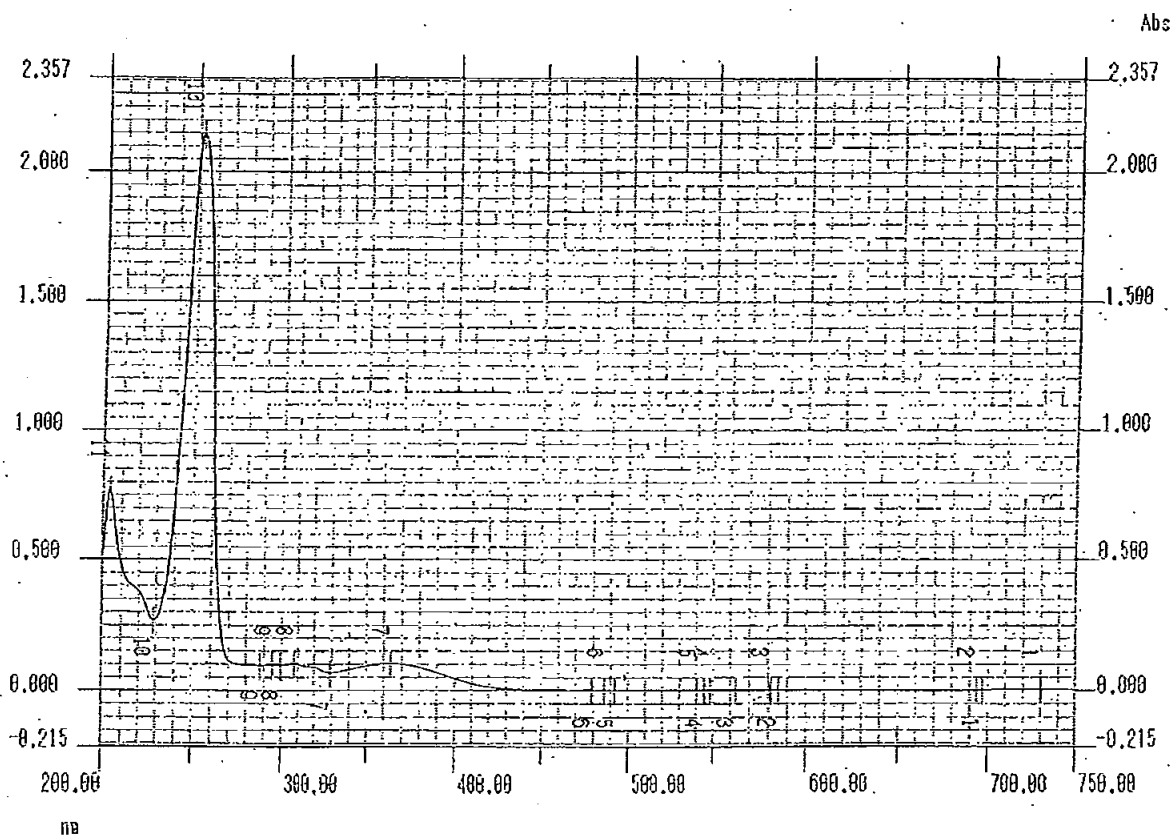


図1.2 有機銅純品の酸性条件下のメタノール中 UV/VIS スペクトル

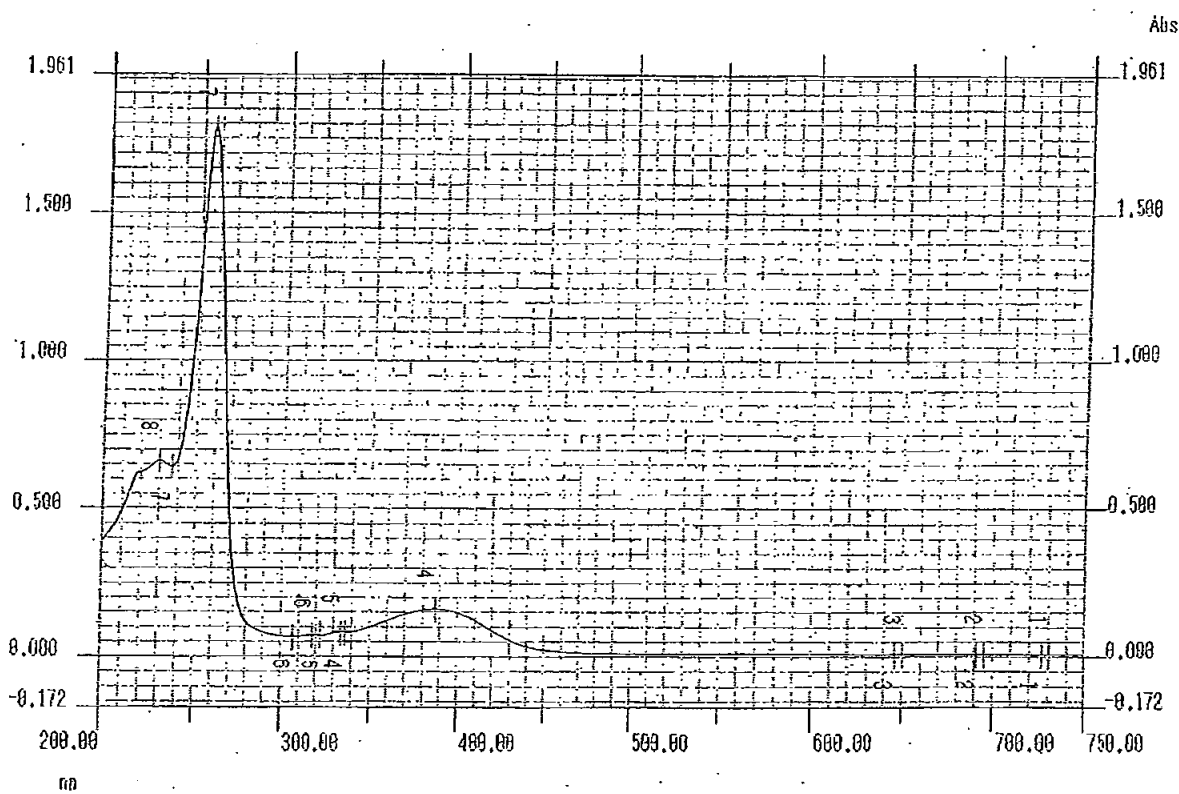


図1.3 有機銅純品のアルカリ性条件下のメタノール中 UV/VIS スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

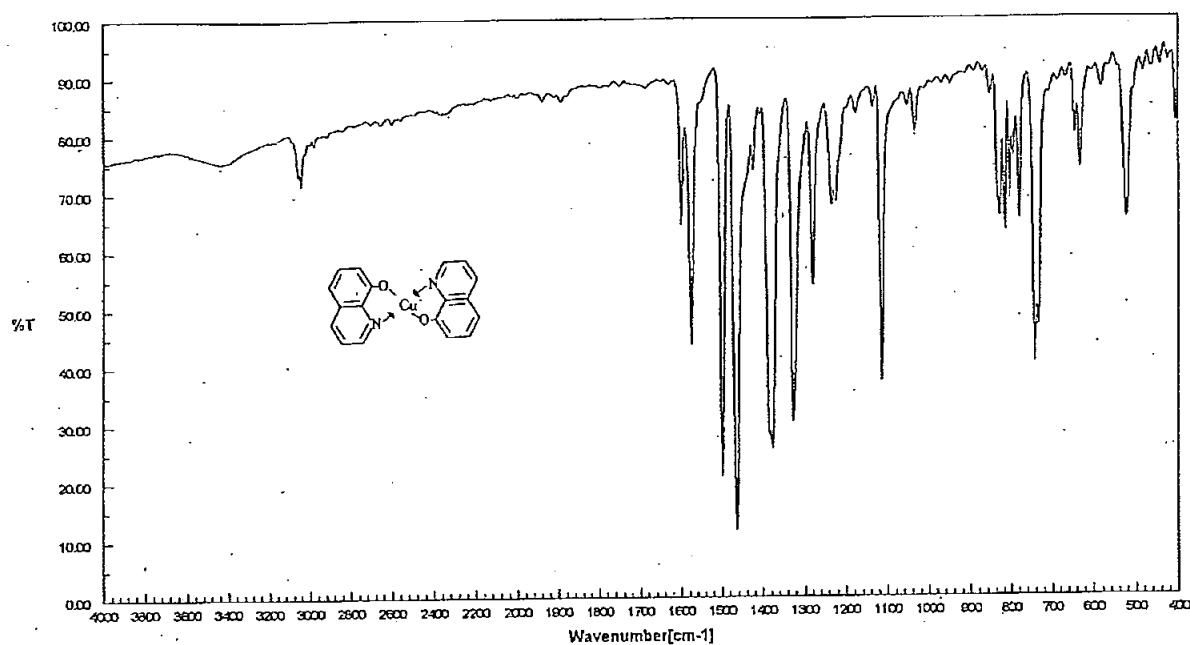
図2 赤外吸収スペクトル

使用機器:赤外分光光度計 FT/IR-300E(日本分光工業株)

測定方法:KBr 錠剤法

分解能 :4 cm^{-1}

測定範囲:4000~400 cm^{-1}



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

図3 質量スペクトル

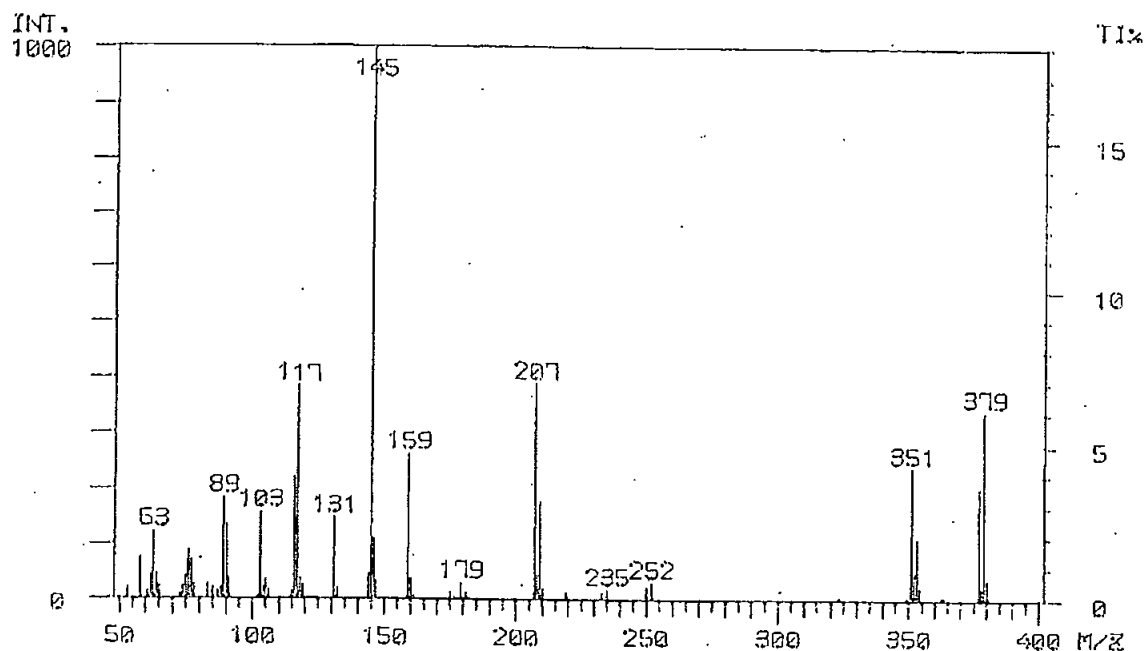
使用機器: 質量分析計 JMS-DX300 (日本電子㈱)

イオン化法: 電子衝撃 (EI) 法

イオン化電圧: 70eV

測定範囲: 50~600

試料注入: 直接導入 (プローブ温度: 50~300°C、64°C/分で昇温)



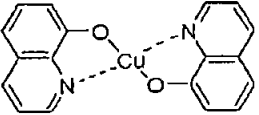
有機銅純品の質量スペクトル

質量スペクトルの帰属

m/z	帰属構造
351	分子イオン (M ⁺)
207	開裂イオン
145	開裂イオン
117	開裂イオン

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値
有効成分	有機銅	8-ヒト'ロキシリソ 銅		$C_{18}H_{12}CuN_2O_2$	351.83		
原体 混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

4. 製剤の組成

1) 40%水和剤	有機銅	40%
	湿展剤 等	60%
2) 50%水和剤	有機銅	50%
	鉍物質微粉、界面活性剂等	50%
3) 80%水和剤	有機銅	80%
	鉍物質微粉、界面活性剂等	20%
4) 35%フロアブル	有機銅	35%
	水、界面活性剂等	65%
5) 10%粒剤	有機銅	10%
	鉍物質微粉、湿展剂等	90%
6) 5%塗布剤	有機銅	5%
	酢酸ビニール樹脂、水、分散剂等	95%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

III. 生物活性

1. 活性の範囲

多くの作物病害の病原である糸状菌、細菌に対して有効である。登録されている病害を病原菌の属別に整理すると次のとおり。

[糸状菌]

Phytophthora	疫 病	(きゅうり)
Plasmopara	べ と 病	(ぶどう)
Bremia	べ と 病	(レタス)
Pseudoperonospora	べ と 病	(きゅうり、かぼちゃ、すいか、メロン、まくわうり、ホップ)
Taphrina	縮 葉 病	(桃)
Phyllactinia	うどんこ病	(柿)
Valsa	腐らん病	(りんご)
Endothia	胴 枯 病	(栗)
Diaporthe	黒 点 病	(かんきつ)
Physalospora	輪 紋 病	(りんご、梨)
Mycosphaerella	黄 斑 病	(かんきつ)
	黒 点 病	(りんご)
	落 葉 病	(柿)
Venturia	黒 星 病	(りんご、梨)
Pyrenophora	斑 葉 病	(大麦)
Tilletia	腥黒穂病	(小麦)
Typhula	雪 腐 病	(麦類、芝)
Corticium	赤 衣 病	(りんご)
Stereum	銀 葉 病	(りんご)
Botrytis	灰色かび病	(かんきつ)
Alternaria	黒 斑 病	(梨)
	斑点落葉病	(りんご)
Cercospora	落 葉 病	(柿)
Fusarium	雪 腐 病	(麦類、芝)
Colletotrichum	炭 そ 病	(きゅうり、かぼちゃ、すいか、メロン、まくわうり、かんきつ)
Cylindrosporium	葉 渋 病	(やまのいも)
Gloeosporium	炭 そ 病	(柿)
Elsinoe	そうか病	(かんきつ)
	黒とう病	(ぶどう)
Phomopsis	胴 枯 病	(梨)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

〔細 菌〕

Pseudomonas	斑点細菌病	(きゅうり、メロン)
	腐敗病	(レタス)
Xanthomonas	黒腐病	(キャベツ、ブロッコリー)
	斑点細菌病	(レタス)
Erwinia	葉枯病	(こんにゃく)
	軟腐病	(はくさい、たまねぎ、レタス)
	腐敗病	(こんにゃく)
	立枯病	(せんりょう)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 作用機構

福永（1958）は、8-ヒドロキシキノリン銅は疎水性、親リポイド性で浸透性が強く、化学療法的な殺菌剤と記している。

豊田・鈴木（1960）は、梨黒斑病菌に対する8-ヒドロキシキノリン銅の作用機構を研究し、スライド法による孢子発芽試験、寒天培地希釈法による培養試験、幼果接種法或は葉接種法による発病予防効果試験及び黒斑病菌菌糸の呼吸阻害の何れにおいてもすぐれた効果が認められたと発表している。次に（1961）、8-ヒドロキシキノリン銅、8-オキシシン、硫酸銅について、梨黒斑病菌菌体の呼吸阻害、蛋白変性、致死の関係を研究し、8-ヒドロキシキノリン銅は先ず呼吸を阻害し、その後に蛋白質変性を起し、変性が進むと死に至るが、その濃度は硫酸銅の1/10以下であり、呼吸阻害を起す濃度と蛋白質変性を起こす濃度の差が硫酸銅では100倍位を要するが8-ヒドロキシキノリン銅では10倍程度であるとしている。更に（1962）、8-ヒドロキシキノリン銅の殺菌効力の解析を行い、梨黒斑病菌菌体に対する著しい呼吸阻害が菌体磨砕及び原形質顆粒体では低下することから、菌体内で硫酸銅と8-オキシシンによる阻害の和以上に相乗効果の現われる理由として、8-オキシシンが原形質内へのCuの搬入を増加させると推論している。この推論は組織化学的方法、化学分析法によって硫酸銅単独区に比べ8-オキシシンを添加した硫酸銅区で菌体中の銅量が著しく増加することを確認している。また菌体の呼吸阻害がアミノ酸、有機酸の存在で硫酸銅では低下するが8-ヒドロキシキノリン銅では安定であると報告している。

豊田（1965）は、8-ヒドロキシキノリン銅が梨黒斑病菌の呼吸のどの部分を阻害するかを究明し、酸化酵素系の阻害によるものではなく、脱水素酵素のSH基を阻害することを明確にし、更に呼吸系上のどの位置の脱水素酵素を阻害するかについては6-phosphogluconate脱水素酵素であることを明らかにした。

北島（1962）は、8-ヒドロキシキノリン銅はとくに強い雨の場合にはボルドー液に比較して持続性が劣るが、葉害の懸念がほとんどないために、梨の黒斑病に対する袋かけ前の散布剤としてボルドー液に代って使用できると考えられ、その実用価値は大きいと思われる。しかし病斑上の孢子形成を阻止する効果は認められないと記している。

上杉（1982）は病害防除剤（農業用殺菌剤）の菌体生理阻害の種類を多作用点阻害、呼吸阻害、菌体成分生合成阻害、増殖阻害、物理的阻害に分類し、8-ヒドロキシキノリン銅を銅剤の一つとして多作用点阻害剤（SH酵素阻害）で非選択的に広範囲の病害に有効と説明している。

伴野（1983）は、梨黒斑病菌の孢子発芽、菌糸侵入において8-ヒドロキシキノリン銅は硫酸銅と8-オキシシンの間に相乗効果がみられたと報告している。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

3. 作用特性と防除上の利点等

- ① 各病害に総合的に有効。過去にボルドー液が広範囲の作物の病害防除に使用されたのは総合的な防除効果が優れる点であった。8-ヒドロキシキノリン銅は、26 属にも及ぶ各種の糸状菌による病害防除に登録されているのみならず、有効な農薬が少なく難防除の細菌による病害防除にも十分な効果を発揮する。
- ② 殺ダニ剤、殺虫剤、他の殺菌剤など殆んど他剤と混用可能。酸、アルカリに極めて安定。ボルドー液はその強いアルカリ性のために多くの殺虫剤等と混用不可である。8-ヒドロキシキノリン銅はボルドー液の欠点を改善したのものとして使用者の高い評価を得ている。また、その性質により他の農薬成分との混合剤も数多く開発され、2008 年現在 15 銘柄の混剤が登録されている。
- ③ 抵抗性の発達した事例がない。選択性の高い酵素阻害剤の多くは非常に優れた効果を発揮するが抵抗性の発達もしばしば報告される傾向がある。8-ヒドロキシキノリン銅では、そのような事例は全くみられない。また他剤で抵抗性が生じた病害防除にも有効に使用できる。
- ④ 作物の生育収量、時には品質にプラスの効果がある。ボルドー液の特徴の一つである成分中の銅が、作物の生育に必要な微量元素としての銅の働きをするとされている。8-ヒドロキシキノリン銅にもそうした効果が認められ、特に菓害の出やすい作物や出やすい時期の防除に使用できる。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

1) キノンドー水和剤 40 (有機銅：40%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
りんご	黒星病 斑点落葉病 黒点病	500～800 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	7 回以内(塗布は 3 回以内、散布は 4 回以内)
かき	炭疽病 うどんこ病 落葉病	500 倍			5 回以内		8 回以内(塗布は 3 回以内、散布は 5 回以内)
なし	黒斑病 黒星病	800～1000 倍		収穫 3 日前まで	9 回以内		12 回以内(塗布 は 3 回以内、散 布は 9 回以内)
	輪紋病	600～800 倍					
もも	縮葉病	500～800 倍		発芽前～開花直前 まで 但し、 収穫 60 日前まで	5 回以内		8 回以内(塗布は 3 回以内、散布 は 5 回以内)
ネクタリン		700～800 倍					
みかん	黒点病	400～500 倍		収穫 30 日前まで	5 回以内		5 回以内
	そうか病 黄斑病	500 倍					
ぶどう	べと病 枝膨病	600 倍		収穫 45 日前まで	4 回以内 (開花後 は 1 回)		4 回以内(開花後 は 1 回以内)
	黒とう病	600～800 倍					
ホップ	べと病	600 倍		3 回以内	3 回以内		
メロン	べと病 炭疽病	800～1000 倍	100～ 300L/10a	収穫 10 日前まで	5 回以内	5 回以内	
	斑点細菌病	600～800 倍					
	果実汚斑細菌病	800 倍					
すいか	べと病 炭疽病	800～1000 倍	収穫 7 日前まで*	3 回以内	3 回以内		
	果実汚斑細菌病	800 倍					
かぼちゃ	べと病 炭疽病	800～1000 倍	収穫 30 日前まで	5 回以内	5 回以内		
はくさい	軟腐病	800 倍	収穫 21 日前まで				
レタス	腐敗病	600～800 倍	収穫 14 日前まで	5 回以内	5 回以内		
	斑点細菌病 軟腐病 べと病	600 倍					
やまのいも	葉洗病		収穫 30 日前まで	8 回以内	8 回以内		
こんにやく	腐敗病 葉枯病	500～600 倍	収穫 14 日前まで				
キャベツ	黒腐病	500～800 倍	収穫 30 日前まで	3 回以内	3 回以内		
ブロッコリー	黒腐病 黒斑細菌病	800 倍	収穫 14 日前まで				
たまねぎ	軟腐病	600 倍					

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

続き) キノンドー水和剤 40 (有機銅 40%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
きゅうり	斑点細菌病	600~800倍	100~300L/10a	収穫前日まで*	5回以内	散布	5回以内
	べと病 炭疽病	800~1000倍					
しそ	斑点病	1000倍		収穫前日まで	4回以内	株元散布	4回以内
芝	雪腐病	100~200倍	0.5~1L/m ²	根雪前	3回以内	散布	5回以内
シクラメン	葉腐細菌病	5倍	2~5mL/株	発病初期	4回以内	葉柄基部散布	5回以内
せんりょう	立枯病	1000倍	3L/m ²		8回以内	灌注	8回以内
麦類(小麦を除く)	雪腐病	200~400倍	100~200L/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
小麦	斑葉病 なまぐさ黒穂病	10倍	-	は種前	1回	20分~1時間 種子浸漬	5回以内 (種子への処理は1回以内)
		100倍				6~12時間 種子浸漬	
		乾燥種子重量の0.5%				種子粉衣	
まつ	葉ふるい病	500倍	200~700L/10a	生育期	4回以内	散布	4回以内

*申請中

2) サンキノリン (有機銅 50%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
りんご	黒星病 斑点落葉病	500~800倍	200~700L/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	7回以内 (塗布は3回以内、 散布は4回以内)
なし	黒星病 黒斑病	1000~1200倍		収穫3日前まで	9回以内		12回以内 (塗布は3回以内、 散布は9回以内)
みかん	そうか病	500倍		収穫30日前まで	5回以内		5回以内
	黒点病	500~700倍		収穫14日前まで			8回以内 (塗布は3回以内、 散布は5回以内)
かき	炭疽病	800倍					
麦類	雪腐病	250~500倍	100~200L/10a	根雪前	2回以内		小麦は5回以内(種子への処理は1回以内)、 麦類(小麦を除く)は2回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

3) キノンドー水和剤80 (有機銅80%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数	
なし	黒星病 黒斑病	1200~2000倍	200~ 700L/10a	収穫3日前まで	9回以内	散布	12回以内(塗布は3回以内、散布は9回以内)	
	輪紋病	1200倍						
りんご	黒星病 斑点落葉病	1200~1600倍		収穫14日前まで	4回以内		7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内)	
	輪紋病	1200倍						
マルメロ かりん	黒点病	1200~2000倍		収穫30日前まで	5回以内		4回以内	
	ごま色斑点病	1200倍						
かき	炭疽病 うどんこ病	1000~1400倍		収穫30日前まで	3回以内		8回以内(塗布は3回以内、散布は5回以内)	
	落葉病	1000倍						
みかん	黒点病	800~1000倍		収穫45日前まで	4回以内(開花後は1回)		5回以内	
	灰色かび病	800倍						
かんきつ (みかんを除く)	黒点病	800~1000倍		収穫21日前まで	5回以内		5回以内	
	灰色かび病 幹腐病	800倍						
ぶどう	黒とう病	1200~1600倍		植付前	1回		球根瞬間浸漬	1回
	べと病	1200倍						
はくさい	軟腐病	1200倍	100~ 300L/10a	収穫30日前まで	5回以内	5回以内		
レタス	腐敗病	1200~1600倍						
食用ゆり	鱗茎さび症	50倍	—	植付前	1回	球根瞬間浸漬	1回	
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	400~800倍	100~ 200L/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内	
小麦								眼紋病
芝	雪腐病	200~400倍	0.5~ 1L/m ²	根雪前	3回以内	散布	5回以内	
		80~100倍	0.2~ 0.25L/m ²					
芝 (ベントグラス)	雪腐小粒菌核病	40倍	0.1L/m ²					
シクラメン	葉腐細菌病	10倍	2~5mL/株	発病初期	4回以内	葉柄基部 散布		

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

4) オキシンドー水和剤 80 (有機銅 80%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
みかん	黒点病 黄斑病	800~1000倍	200~ 700L/10a	収穫 30 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
	そうか病 炭疽病(さび果)	800倍					
かんきつ (みかんを除く)	黒点病 黄斑病	800~1000倍		収穫 30 日前まで*	3 回以内		3 回以内
	そうか病、 炭疽病(さび果) 幹腐病	800倍					
りんご	黒星病 黒点病 斑点落葉病	1200~1600倍		収穫 14 日前まで	4 回以内		7 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 4 回以内)
	輪紋病 すす点病 すす斑病 褐斑病	1200倍					
	マルメロ かりん	黒点病					
なし	黒斑病 黒星病	1200~2000倍		収穫 3 日前まで	9 回以内		12 回以内(塗 布は 3 回以 内、散布は 9 回以内)
	輪紋病	1200~1600倍					
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病	1000~1400倍		収穫 14 日前まで	5 回以内		8 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 5 回以内)
もも	縮葉病	1000倍		発芽前~開花直前 まで 但し、収穫 60 日前まで			
おうとう	褐色せん孔病	1200倍		収穫終了後~ 落葉期まで	3 回以内		6 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 3 回以内)
はくさい	軟腐病 べと病	800~1200倍 800倍		100~ 300L/10a	収穫 30 日前まで		5 回以内
レタス	腐敗病	1200倍	収穫 21 日前まで				
キャベツ	黒腐病 軟腐病	1000倍	収穫 14 日前まで		3 回以内	3 回以内	
こんにやく	腐敗病		収穫 30 日前まで		8 回以内	8 回以内	
いちご	炭疽病		育苗期		3 回以内	3 回以内	
シクラメン			発病初期		5 回以内	5 回以内	
麦類 (小麦を除く)	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	400倍	根雪前		2 回以内	2 回以内	
小麦	眼紋病		60~ 150L/10a		収穫 60 日前まで	5 回以内	5 回以内(種 子への処理 は 1 回以内)

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

続き) オキシンドー水和剤 80 (有機銅 80%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
芝	雪腐病	250~500 倍	1~2L/m ²	根雪前	3 回以内	散布	5 回以内
		40~80 倍	0.2L/m ²				
芝(ペントグラス)	かさ枯病	200 倍	0.5L/m ²	発病前~発病初期	5 回以内		5 回以内

作物名	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
芝(ペントグラス)	コケ類	コケ類発生期	80~120 倍	0.2~0.3L/m ²	5 回以内	散布	5 回以内

5) 有機銅水和剤 80 (有機銅 80%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
麦類	雪腐病	400~800 倍	100~200L/10a	根雪前	2 回以内	散布	小麦は 5 回以内 (種子への処理は 1 回以内)、 麦類(小麦を除く)は 2 回以内
芝(ペントグラス) 芝(ブルーグラス)	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	200~400 倍	1 L/m ²		3 回以内		

6) ドウグリン水和剤 (有機銅 80%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
芝(日本芝)	ヘルミトス [®] リウム葉枯病 カーブ [®] リア葉枯病	250~500 倍	発病初期	3 回以内	1 m ² 当り 1L 散布	5 回以内
芝(ペントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ) ヘルミトス [®] リウム葉枯病 カーブ [®] リア葉枯病	250~500 倍				
	立枯病(ライクオールパッチ)	250 倍				
	かさ枯病	200 倍				
	紅色雪腐病	80~100 倍				
	雪腐小粒菌核病	80~100 倍	根雪前	3 回以内	1 m ² 当り 0.2~0.25L 散布	5 回以内
		40 倍				
まつ	葉ふるい病	1000 倍	生育期	4 回以内	散布	4 回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

続き) ドウグリソ水和剤 (有機銅 80%)

作物名	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
芝(バントグラス)	藻類	藻類発生前	80~120倍	3回以内	1㎡当たり 0.2~0.3L 散布	5回以内
	コケ類	コケ類発生前 ~生育期				

7) ナレート水和剤 (有機銅 50%、キリニック酸 10%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キリニック酸を含む農薬の総使用回数	有機銅を含む農薬の総使用回数			
ばれいしょ	軟腐病	600~1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種いも浸漬は1回以内)	5回以内			
キャベツ	黒腐病	800倍			3回以内		3回以内	3回以内			
ブロッコリー	軟腐病	1000倍			2回以内		2回以内	2回以内			
はくさい	黒斑病 白斑病 べと病	800倍		収穫30日前まで	3回以内		3回以内	5回以内			
				収穫21日前まで*							
だいこん	軟腐病	800~1000倍*		収穫14日前まで					5回以内	3回以内	3回以内
たまねぎ	べと病	800倍		収穫14日前まで					3回以内	5回以内	
ねぎ	軟腐病	1000倍		2回以内	2回以内		5回以内				
レタス	斑点細菌病 腐敗病										
こんにゃく	腐敗病	800~1000倍		収穫21日前まで	5回以内		6回以内 (種いもへの吹き付けは1回以内、 植付後は5回以内)	8回以内			
にんにく	春腐病	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内	5回以内					

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

8) キノンドーフロアブル (有機銅 35%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
なし	黒斑病 輪紋病 黒星病 褐色斑点病	1000倍	200~ 700L/10a	収穫3日前まで	9回以内	散布	12回以内(塗布は3回以内、散布は9回以内)
みかん	そうか病 黒点病	600~800倍		収穫30日前まで	5回以内		5回以内
ぶどう	枝膨病 黒とう病 べと病	600倍		収穫45日前まで	4回以内 (開花後は1回)		4回以内(開花後は1回以内)
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病	800~1000倍		着色期前まで 但し収穫14日前まで	5回以内		8回以内(塗布は3回以内、散布は5回以内)
りんご	斑点落葉病 黒星病 褐色病 すす点病 すす斑病 輪紋病 炭疽病	800~1000倍		収穫14日前まで	4回以内		7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内)
いちじく	そうか病	600倍		収穫60日前まで	3回以内		3回以内
おうとう	褐色せん孔病	700倍	収穫終了後~ 落葉期まで	6回以内(塗布は3回以内、散布は3回以内)			
いちご	炭疽病	100倍 500~800倍	5mL/株	育苗期	クワン部 散布	3回以内	
メロン	斑点細菌病	1000倍	100~ 300L/10a	収穫10日前まで	5回以内	散布	5回以内
キャベツ	黒腐病	800~1000倍		収穫14日前まで	3回以内		3回以内
はくさい	軟腐病	1000倍		収穫30日前まで	5回以内		5回以内
レタス	軟腐病	800~1000倍		収穫21日前まで			
非結球レタス	斑点細菌病 腐敗病			収穫30日前まで			
すいか	果実汚斑細菌病 炭疽病	1000倍		収穫前日まで	5回以内		5回以内
きゅうり	べと病 炭疽病	1200倍					
	斑点細菌病	1200~1500倍					
アスパラガス	茎枯病 べと病	600~800倍		収穫3日前まで			
にんじん	黒葉枯病						
シクラメン	炭疽病	500倍	2~5mL/ 株	発病初期	4回以内	葉柄基部 散布	
	葉腐細菌病	5倍					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

9) ドキリンフロアブル (有機銅 35%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数		
りんご	斑点落葉病 輪紋病 黒星病 褐斑病 すす点病 すす斑病	800～1000倍	200～ 700L/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	7回以内(塗布は3回以内、 散布は4回以内)		
	炭疽病	800倍							
おうとう	せん孔病	700～800倍		収穫終了後～ 落葉期まで	3回以内			6回以内(塗布は3回以内、 散布は3回以内)	
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 枝枯細菌病	1000倍		収穫3日前まで	9回以内			12回以内(塗布は3回以内、 散布は9回以内)	
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病	800～1000倍		収穫14日前まで	5回以内			8回以内(塗布は3回以内、 散布は5回以内)	
もも	縮葉病	800倍		発芽前～開花直 前まで 但し、収 穫60日前まで					
ぶどう	黒とう病 枝膨病 べと病	600倍		収穫45日前まで	4回以内 (開花後は1回)			4回以内(開花 後は1回以内)	
すいか	果実汚斑細菌病	800倍		100～ 300L/10a	収穫前日まで			5回以内	5回以内
	つる枯病 炭疽病	500～1000倍							
メロン	つる枯病 果実汚斑細菌病	800倍			収穫10日前まで			3回以内	
	キャベツ	黒腐病	500～1000倍						
はくさい	軟腐病	800～1000倍	収穫30日前まで		5回以内	5回以内			
きゅうり	べと病 炭疽病	1000～1500倍	収穫前日まで						
	斑点細菌病	1000倍	育苗期		3回以内	3回以内			
いちご	炭疽病	500～800倍							
レタス	腐敗病	800倍	収穫21日前まで		5回以内	5回以内			
	軟腐病	800～1000倍							
非結球レタス	腐敗病	800倍	収穫30日前まで		5回以内	5回以内			
	軟腐病	800～1000倍							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

10) シトラーノフロアブル (有機銅 23%、TPN 23%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数	
りんご	斑点落葉病 黒点病 褐斑病 すす斑病 すす点病 輪紋病 モニリア病 炭疽病	1000 倍	収穫 45 日前まで	3 回以内	散布	7 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 4 回以内)	3 回以内	
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病		着色期前まで (但し、収穫 30 日前まで)			8 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 5 回以内)		
西洋なし	輪紋病 ごま色斑点病		収穫 30 日前まで			12 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 9 回以内)	3 回以内 (休眠期は 1 回以内)	
きゅうり	褐斑病 べと病 斑点細菌病	1000~1200 倍	収穫前日まで	5 回以内		5 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計 8 回以内)	10 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計 8 回以内)	
キャベツ	黒腐病 べと病		収穫 14 日前まで	2 回以内		3 回以内	2 回以内 (は種又は定植前の土壌混和は 1 回以内、散布及びエアゾル剤の噴射は合計 2 回以内)	
はくさい	軟腐病 べと病 白斑病		収穫 30 日前まで					
レタス	すそ枯病 腐敗病 べと病		1000 倍	収穫 21 日前まで		3 回以内	5 回以内	3 回以内 (は種又は定植前の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
	軟腐病							5 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、散布は 3 回以内)
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1000~1200 倍	収穫 3 日前まで				3 回以内	
しょうが	白星病 紋枯病	1000 倍	収穫 14 日前まで	5 回以内			5 回以内	
やまのいも	炭疽病 葉渋病	1000~1200 倍	収穫 30 日前まで				6 回以内	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

1 1) キノンドー粒剤 (有機銅 10%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
芝	雪腐病	20kg/10a	根雪前	3回以内	散布	5回以内
パセリ (露地栽培)	軟腐病	20kg/10a	は種前	1回	土壌表面散布	2回以内(は種前は1回以内、は種後は1回以内)
		20kg/10a	生育期(但し収穫90日前まで)			
シクラメン	葉腐細菌病	1 鉢(用土約1L) 当り 5~10g	鉢上げ時又は鉢替え時		土壌混和	5回以内

1 2) バッチレート (有機銅 5%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数					
りんご	銀葉病 赤衣病 腐らん病 傷口のゆ合促進	原液	剪定時及び病患部削り取り直後	3回以内	剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布	7回以内 (塗布は3回以内、散布は4回以内)					
なし	胴枯病 傷口のゆ合促進			3回以内*		12回以内 (塗布は3回以内、散布は9回以内)*					
かんきつ	幹腐病 傷口のゆ合促進			みかんは5回以内、かんきつ(みかんを除く)は3回以内		みかんは5回以内、かんきつ(みかんを除く)は3回以内					
かき	傷口のゆ合促進			3回以内		8回以内 (塗布は3回以内、散布は5回以内)					
もも							3回以内	3回以内			
うめ									6回以内 (塗布は3回以内、散布は3回以内)		
おうとう										1回	1回
マンゴー											
さくら											

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

1 3) オキシラン水和剤 (キャプタン 20%、有機銅 30%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数	有機銅を含む農薬の総使用回数
みかん	黒点病 そうか病	500~750倍	200~700L/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	5回以内	5回以内
	褐色腐敗病 灰色かび病	500倍						
りんご	黒点病 斑点落葉病 黒星病 輪紋病	500~800倍		収穫14日前まで	4回以内		6回以内	7回以内 (塗布は3回以内、散布は4回以内)
	褐斑病 すす点病 すす斑病 炭疽病	500~600倍						
おうとう	せん孔病	600倍		収穫終了後 ~落葉期まで	3回以内		5回以内	6回以内 (塗布は3回以内、散布は3回以内)
ベリー類	斑点病						3回以内	3回以内
なし	黒星病 黒斑病 輪紋病	500~600倍		収穫3日前まで	9回以内		9回以内	12回以内 (塗布は3回以内、散布は9回以内)
	炭疽病 褐色斑点病							
もも	縮葉病	500倍		発芽前~ 開花直前まで 但し、収穫60日前まで	4回以内		4回以内	8回以内 (塗布は3回以内、散布は5回以内)
すいか	つる枯病 炭疽病	500~600倍		収穫14日前まで	5回以内		5回以内	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
	メロン							
きゅうり	べと病 炭疽病	400~800倍		収穫前日まで*				
	斑点細菌病	400~600倍						
トマト	葉かび病 疫病	400~800倍	収穫30日前まで					
	輪紋病							
レタス	斑点細菌病 腐敗病	500倍	収穫14日前まで					
はくさい	軟腐病 黒斑病							
ねぎ	黒斑病 べと病	600倍						
芝	葉腐病 (ブライムパッチ) 赤焼病	300~500倍	1~2L/m ²	発病初期	8回以内			

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

14) キンセット水和剤 (有機銅 30%、水酸化第二銅 10%)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	有機銅 を含む 農薬の総 使用回数	
みかん	かいよう病	500～ 800 倍	200～ 700L/10a	収穫 30 日 前まで	5 回以内	散布	-	5 回以内	
かんきつ (みかんを除く)				収穫 30 日 前まで*	3 回以内			3 回以内	
おうとう	せん孔病	500 倍		収穫終了後～ 落葉期まで	3 回以内			6 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 3 回以内)	
きゅうり	斑点細菌病	500～ 700 倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで*	5 回以内			-	5 回以内
レタス	軟腐病			収穫 21 日 前まで					
はくさい				収穫 30 日 前まで					
ばれいしょ				収穫 14 日 前まで					
たまねぎ				3 回以内	収穫 21 日 前まで*				
だいこん									

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

15) キンセツ水和剤 80 (有機銅 60%、水酸化第二銅 20%)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数 又は 使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	有機銅を 含む農薬の 総使用回数	
みかん	かいよう病 そうか病	1000～ 1600 倍	200～ 700L/10a	収穫 30 日 前まで	5 回以内	散布	-	5 回以内	
かんきつ (みかんを 除く)				収穫 30 日 前まで*	3 回以内			3 回以内	
りんご	斑点落葉病 輪紋病 褐斑病 炭疽病	1000～ 1200 倍		収穫 14 日 前まで	4 回以内			7 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 4 回以内)	
なし	輪紋病 黒星病			収穫 3 日 前まで	9 回以内			1 2 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 9 回以内)	
おうとう	せん孔病	1000 倍		収穫終了後～ 落葉期まで	3 回以内			6 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 3 回以内)	
もも	せん孔細菌 病 縮葉病			収穫後～ 開花直前まで 但し、収穫 60 日前まで	5 回以内			8 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 5 回以内)	
ネクタリン	せん孔細菌 病			収穫後～ 開花直前まで				5 回以内	
麦類 (小麦を 除く)	紅色雪腐病 雪腐小粒菌 核病	400 倍	100～ 200L/10a	根雪前	2 回以内	散布	2 回以内		
小麦	紅色雪腐病	乾燥種子 重量の 0.5%	-	は種前	1 回	種子粉衣 (乾粉衣)	5 回以内 (種子への 処理は 1 回以内)		
	紅色雪腐病 条斑病	乾燥種子 重量の 1%				種子粉衣 (湿粉衣)			
	紅色雪腐病 雪腐小粒菌 核病	400 倍	100～ 200L/10a	根雪前	5 回以内	散布			
	眼紋病	400～ 800 倍	60～ 150L/10a	収穫 60 日 前まで					
レタス	軟腐病	1000～ 1500 倍	100～ 300L/10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	5 回以内		
ばれいしょ	軟腐病	1000～ 1400 倍		収穫 14 日 前まで			3 回以内	散布	3 回以内
たまねぎ				収穫 21 日 前まで*					
だいこん				収穫 7 日 前まで					
にんにく	春腐病	1000 倍		収穫 7 日 前まで	5 回以内		5 回以内		

*申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

16) ビオネクト (有機銅 30%、脂肪酸グリセリド 55%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は 使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	脂肪酸グリセ リドを含む 農薬の総 使用回数	有機銅 を含む 農薬の総 使用回数
りんご	斑点落葉病 褐斑病 炭疽病 輪紋病 すす点病 すす斑病 黒星病	1000 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日 前まで	4 回以内	散布	-	7 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 4 回以内)
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病 すす点病				5 回以内			8 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 5 回以内)
ぶどう	黒とう病 枝膨病 晩腐病	250～ 500 倍		休眠期～開花前	4 回以内 (開花後は 1 回以内)			4 回以内 (開花後は 1 回以内)
	べと病	1000～ 2000 倍		収穫 45 日前まで				
もも	縮葉病	500 倍		発芽期～ 開花直前まで 但し 収穫 60 日前まで	5 回以内			8 回以内 (塗布は 3 回 以内、散布は 5 回以内)
いちご	炭疽病	600 倍	100～ 300L/10a	育苗期	3 回以内	3 回以内		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

1) キノンドー水和剤40（有機銅40%）

- (1) 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤等との混用はさけること。
- (2) 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くならないうちに発生初期から1～2週間おきに予防的に散布すること。
- (3) 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花20日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意すること。
- (4) もも及びネクタリンの縮葉病防除に使用する場合には、発芽直前及び開花直前にかけてむらのないように樹全体に十分散布すること（休眠期散布）。展葉後は葉害のおそれがあるので散布しないこと。
- (5) ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布すること。なお、ぶどうでは果実肥大期（あずき粒大）以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生ずるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさけること。
- (6) はくさい・たまねぎの軟腐病、レタスの軟腐病・腐敗病・斑点細菌病、きゅうり・メロンの斑点細菌病、キャベツ・ブロッコリーの黒腐病、こんにゃくの腐敗病・葉枯病、シクラメンの葉腐細菌病などの細菌性病害防除に使用する場合は、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (7) しその斑点病に使用する場合は、薬液による汚れが生ずるので、葉にかからないように株元に散布すること。
- (8) うり類に対する葉害は無機の銅剤に比べて少ないが、なお幼苗期・高温時には注意して散布し、過度の連用はさけること。
- (9) シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、薬液による汚れが生ずるので、葉及び花卉にかからないように注意すること。
- (10) 麦の雪腐病の防除に使用する場合は、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当たり100～200Lを散布すること。
- (11) 小麦の種子消毒に使用する場合は
 - ① 種子浸漬処理の場合は浸漬後、水洗いせずに風乾してから播種すること。
 - ② 種子粉衣処理の場合は播種前に適当な容器の中で本剤の所定量が均一に乾燥種子につくように少量ずつついでいねいにまぶすこと。
- (13) 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当たり5gをなるべく根雪近くに散布すること。
- (14) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2) サンキノリン (有機銅 50%)

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) りんごに使用する場合は落花直後から、落花 20 日頃までの散布は、サビ果の発生を多くする場合がありますので避けること。
- (3) りんごは樹勢の弱い場合に連用散布すると生理落葉を助長する事例もあるので通年連用はさけ、3～4回にとどめることが望ましい。特にゴールデン種では注意すること。
- (4) 石灰硫黄合剤、ジネブ剤、水和硫黄剤などの混用は葉害の恐れがあるのでさけること。
- (5) 本剤は病害多発時の使用では、効果が劣る場合があるので、なしでは袋かけ前など病害の発生の多くならないうち又は、発生初期から1～2週間おきに予防的に散布すること。

3) キノンドー水和剤 80 (有機銅 80%)

- (1) 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤等との混用はさけること。
- (2) 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くならないうちに発生初期から1～2週間おきに予防的に散布すること。
- (3) 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花 20 日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意すること。
- (4) 柿の炭疽病防除に使用する場合、発生の多い時には所定の範囲内の高濃度で散布すること。
- (5) ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布すること。なお、ぶどうでは果実肥大期(あずき粒大)以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生ずるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさけること。
- (6) はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病、シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期に予防的に散布すること。
- (7) シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、薬液による汚れが生ずるので葉及び花卉にかからないように注意すること。
- (8) 麦類の雪腐病の防除に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当り100～200Lを散布すること。
- (9) 小麦の眼紋病の防除に使用する場合、高温時や葉身が軟弱に生育している状態で散布すると、葉身先端部に葉害が生ずることがあるので留意すること。
- (10) 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当り2.5gをなるべく根雪近の晴天の日に散布すること。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 水溶性フィルム包装の場合、内袋はぬれた手で触れないこと。内袋はそのまま所定量の水に投入すること。外袋の開封後は使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合には、できるだけ速やかに使い切ること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

4) オキシンドー水和剤 80 (有機銅 80%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ジネブ剤、水和硫黄剤との混用は薬害のおそれがあるのでさけること。
- (3) 本剤は病害多発時の使用では効果が劣る場合があるので発生の少ない時期又は発生初期から1～2週間おきに予防的に散布すること。
- (4) 落葉果樹に使用する場合、病害の感染初期から7～15日おきに散布すること。
- (5) りんごに使用する場合、サビ果の発生を多くする場合があるので、落花直後から落花20日後頃まで使用をさけること。また、樹勢の弱い場合には連続散布すると生理落葉を助長する事例もあるので、連用は避けることが望ましい。特にゴールドデン及びゴールドデンからの育成品種には注意すること。
- (6) かきにはカキホソガ発生期前に使用するか、カキホソガ防除剤と併用すること。カキホソガ防除剤として有機燐剤を混用するときは乳剤は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
- (7) ももに使用する場合、発芽後の若葉には薬害を生じる恐れがあるので、展葉後の散布は避けること。
- (8) 芝の雪腐病防除には根雪前に1㎡当り所定濃度の希釈液1～2Lを10～14日間隔で2～3回散布すること。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行くこと。
- (9) 芝のコケ類防除には薬量として1㎡当り2.5gを芝生育期のコケ類発生期に10～14日間隔で2～3回散布すること。
- (10) ベントグラスに使用する場合、夏期高温時に連続散布すると薬害を生ずるおそれがあるので所定量を厳守すること。
- (11) 麦類の紅色雪腐病、雪腐小粒菌核病に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当り100～200リットルを散布すること。
- (12) シクラメンに使用する場合、葉と花に汚れを生じる恐れがあるので、必ず展着剤を加用して散布すること。
- (13) 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次のことに注意すること。
 - ①内袋は、濡れた手で触らないこと。
 - ②外袋の開封後は、一度に使いきるのが望ましいが、保管する場合は、密封して、湿気を帯びないように注意すること。
- (14) はくさいに使用する場合、幼苗期、高温期には薬害を生じるおそれがあるので、過度の連用を避けること。
- (15) はくさいの軟腐病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では、効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (16) 本剤は自動車などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (17) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

5) 有機銅水和剤 80 (有機銅 80%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (3) 芝の紅色雪腐病、雪腐小粒菌核病に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日に1～2回散布すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

6) ドウグリソ水和剤 (有機銅 80%)

- (1) 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤との混用はさけること。
- (2) 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当り 2.5 g をなるべく根雪近くの晴天の日に散布すること。
- (3) 芝生育期のコケ類又は藻類防除には、コケ類については発生前～発生期に、藻類については発生前に薬量として 2.5 g/m² を 10～14 日間隔で 2～3 回散布すること。
- (4) 芝のかさ枯病防除には、芝生育期のかさ枯れ病発病前～発病初期に薬量として 2.5 g/m² を 7～10 日間隔で 2～3 回散布すること。
- (5) ベントグラスに使用する場合、夏期高温時に連続散布すると、茎葉が黄褐変することがあるので注意すること。また、誤って高濃度で散布すると、葉害を生ずるおそれがあるので、所定濃度を厳守すること。
- (6) 本剤を芝の生育期に使用する場合、茎葉に薬液の汚れが残ることがあるので注意すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

7) ナレート水和剤 (有機銅 50%、ナリニク酸 10%)

- (1) 石灰硫黄合剤、ジネブ剤との混用は葉害の恐れがあるのでさけること。
- (2) はくさい、レタス、キャベツに対して使用する場合、収穫間際の散布では収穫物に汚れを生ずることがあるので留意すること。
- (3) はくさい・たまねぎ・レタス・キャベツ・ブロッコリー・だいこん・ねぎの軟腐病、はくさいのべと病、レタスの斑点細菌病及び腐敗病並びににんにくの春腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣る場合があるので、発病前あるいは発病初期に予防的に散布すること。
- (4) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

8) キノンドーフロアブル (有機銅 35%)

- (1) 使用直前に容器をよくふって薬剤を均一にすること。
- (2) 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤等との混用はさけること。
- (3) 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くならないうちに発生初期から 1～2 週間おきに予防的に散布すること。
- (4) 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花 20 日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールドデン及びゴールドデンからの育成品種では注意すること。
- (5) キャベツの黒腐病、はくさいの軟腐病、レタスの軟腐病・斑点細菌病・腐敗病、きゅうり・メロンの斑点細菌病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (6) ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布すること。なお、ぶどうでは果実肥大期(あずき粒大)以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生ずるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさけること。
- (7) かきに使用する場合、果実に葉害を生ずるおそれがあるので、着色期以降の散布はさけること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

- (8) シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、葉柄基部に散布すること。また、葉液による汚れが生ずるので、葉及び花卉にかからないように注意すること。
炭疽病に使用する場合は、葉液全面散布によって葉及び花卉に汚れの生ずる場合があるので、出荷直前の散布をさけること。
- (9) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (10) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

9) ドキリンフロアブル (有機銅 35%)

- (1) 石灰硫黄合剤、ジネブ剤、水和硫黄剤との混用は薬害のおそれがあるのでさけること。
- (2) 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花 20 日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意すること。
- (3) はくさい、レタス、キャベツの軟腐病、キャベツの黒腐病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣ることがあるので、発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (4) ぶどうに使用する場合、果実肥大期(あずき粒大)以降の散布では、さび果や果房の汚れを生ずることがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布は避けること。
- (5) 本剤は自動車などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

10) シトラーフロアブル (有機銅 23%、TPN 23%)

- (1) 使用直前に容器をよく振って薬剤を均一にすること。
- (2) 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤等との混用はさけること。
- (3) 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くなならないうちに発生初期から 1～2 週間おきに予防的に散布すること。
- (4) りんごに使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、開花直前から落花 20 日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意すること。
- (5) きゅうりの斑点細菌病、キャベツの黒腐病、はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病、軟腐病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (6) かきに使用する場合、夏期高温時及び着色期以降の散布は、果実に薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
- (7) 西洋なしに使用する場合、夏期高温時の散布は、葉に薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

- (9) 本剤は衣服等に付着すると着色するので取扱いに注意すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

1 1) キノンドー粒剤 (有機銅 15%)

- (1) 芝生の雪腐病防除に使用する場合、根雪前～根雪直前に散布すること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

1 2) バッチレート (有機銅 5%)

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 使用直前によく攪拌し原液をそのままハケ等で塗布すること。
- (3) りんご、なしに対しては病斑を見つけ次第病患部を大きめに完全に削り取りその傷あと及びその周辺に十分塗布すること。又、せん定、整枝時や環状はく皮等による切口に予防的に塗布する。
- (4) 使用後のハケはそのまま放置せず、水でよく洗うこと。
- (5) かきを使用する場合、富有、松本早生富有などでは効果が劣る場合があるので注意すること。
- (6) うめでは1年生切り戻し部への塗布により、枯れ込みが助長される場合があるので注意すること。

1 3) オキシラン水和剤 (キャプタン 20%、有機銅 30%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 本剤の所要量を水に加え、よくかきまぜてから散布すること。
- (3) 石灰硫黄合剤、水和硫黄、ジネブ、チウラムとの混用は避けること。
- (4) 一般の殺虫剤等との混用は差支えないが、乳剤との混用は薬害を起こすおそれがあるので、5～6月の落葉果樹では注意すること。
- (5) ビニールハウスや温室栽培のそ菜では、散布後の本剤が雨などにより流されにくいのため、作物表面に長く残り収穫物の外観を汚すので、収穫期間中は使用を避けること。
- (6) ももに使用する場合には、発芽後の若葉には薬害のおそれがあるので、必ず開花直前までに散布すること。
- (7) うり類に対する薬害は無機銅剤に比べ少ないが、幼苗期、高温時には注意して散布し過度の連用は避けること。
- (8) りんごに使用する場合、サビ果の発生を多くする場合があるので、落花直後から落花20日後頃まで使用を避けること。又、樹勢の弱い場合には連用散布すると生理落葉を助長する事例もあるので連用は避けることが望ましい。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種には注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

- (9) りんごの斑点落葉病・黒星病に対しては多発時には効果が不十分な場合があるので、なるべく発生初期に散布し多発時には所定濃度範囲の高濃度で使用する。
- (10) みかんの褐色腐敗病防除に使用する場合、発生後の散布は効果がないので、発生が予想される場合又は初発生をみたら直ちに散布すること。
- (11) はくさいの軟腐病及びねぎのべと病に使用する場合、発病後の散布では十分な効果が得られないので予防的に散布すること。
- (12) 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次のことに注意すること。
 - ① 内袋は、濡れた手で触らないこと。
 - ② 外袋の開封後は、一度に使いきるのが望ましいが、保管する場合は、密封して、湿気を帯びないように注意すること。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (14) 本剤は自動車などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

1 4) キンセツ水和剤（有機銅 30%、水酸化第二銅 10%）

- (1) 石灰硫黄合剤との混用はさけること。
- (2) きゅうりの斑点細菌病、たまねぎ、はくさい、レタス、ばれいしょ及びだいこんの軟腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (3) きゅうり、はくさい、レタス及びだいこんに使用する場合、幼苗期や高温時の散布では薬害を生じやすいのでその時期の使用をさけること。また、連続散布すると葉が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさけること。
- (4) かんきつに使用する場合、軽度の薬害（スターメラノーズ）を生ずることもあるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (5) 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は薬害軽減に有効であるが、かんきつ等果実の収穫間際には果実に汚れを生ずるので留意すること。
- (6) おうとうに使用する場合、薬害を生ずるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

15) キンセツ水和剤 80 (有機銅 60%、水酸化第二銅 20%)

- (1) 石灰硫黄合剤との混用はさけること。
- (2) かんきつに使用する場合、軽度の薬害(スターメラノーズ)を生ずることもあるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (3) ももに使用場合は、以下の事項に注意すること。
 - ①せん孔細菌病防除に使用するには、薬害を生ずるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加すること。
 - ②縮葉病防除に使用するには、発芽直前及び開花直前にかけむらのないように樹全体に十分散布すること(休眠期散布)。展葉後は薬害のおそれがあるので散布しないこと。
- (4) りんご、おうとう及びネクタリンに使用する場合、薬害を生ずるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加すること。
- (5) 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は薬害軽減に有効であるが、かんきつ、りんご、なし等果実の収穫間隙では果実に汚れを生ずるので留意すること。
- (6) なしの病害防除に使用する場合、高温時に連続散布をすると葉や果実に薬害(ネクロシス、サビ果等)を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (7) 本剤をりんごの病害防除に使用場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花20日頃までの使用はさけること。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意すること。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意すること。
- (8) ばれいしょ、たまねぎ、だいこん、レタスの軟腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布すること。
- (9) レタス及びだいこんに使用する場合、幼苗期や高温時の散布では薬害を生じやすいのでその時期の使用をさけること。また、連続散布すると葉が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさけること。
- (10) 麦類の雪腐病の防除に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで散布すること。
- (11) 小麦の眼紋病の防除に使用する場合、高温時や葉身が軟弱に生育している状態で散布すると葉身先端部に薬害が生ずることがあるので留意すること。
- (12) 小麦の種子消毒に使用場合は、以下の事項に注意すること。
 - ①種子粉衣(乾粉衣)の場合は播種前に適当な容器の中で本剤の所定量が均一に乾燥種子につくように少量ずつついでいねいにまぶすこと。
 - ②種子粉衣(湿粉衣)の場合はあらかじめ種子をしめらせて種子乾粉衣と同様に処理すること。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

1 6) ビオネクト (有機銅 30%、脂肪酸グリセリド 55%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) りんごに使用する場合は落花直後から、落花 20 日頃までの散布は、サビ果の発生を多くする可能性があるので避けること。
- (3) りんごは樹勢の弱い場合に連用散布すると生理落葉を助長する事例もあるので通年連用は避け、3～4回にとどめることが望ましい。
特にゴールデン種では注意すること。
- (4) ぶどうの生育期に使用する場合、果実肥大期 (あずき粒大) 以降の散布はサビ果や果房の汚れを生ずるおそれがあるので無袋栽培ではこの時期以降の散布は避けること。
- (5) 水和硫黄などとの混用は薬害の恐れがあるので避けること。
- (6) 発芽、展葉後は石灰硫黄合剤との混用は薬害の恐れがあるので避けること。
- (7) 水溶性フィルム包装剤については下記の注意事項を守ること。
 - ①内袋はぬれた手で触れないこと。
 - ②内袋はそのまま所定量の水に投入すること。
 - ③外装の開封後は使い切ることが望ましい。
 - ④水溶性フィルム包装剤は通常の取り扱いでは問題ないが、強い衝撃を与えたり、鋭利な物で突かないこと。
 - ⑤万一外装内で内袋が破袋した場合は、全量を所定量の水に投入すれば問題ない。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

1) キノンドー水和剤40 (有機銅 40%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

2) サンキノリン (有機銅 50%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

3) キノンドー水和剤80 (有機銅 80%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

4) オキシンドー水和剤80 (有機銅 80%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

5) 有機銅水和剤80 (有機銅 80%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

6) ドウグリーン水和剤 (有機銅 80%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

7) ナレート水和剤 (有機銅 50%、グリコニック酸 10%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

8) キノンドーフロアブル (有機銅 35%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

9) ドキリンフロアブル (有機銅 35%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

10) シトラーノフロアブル (有機銅 23%、TPN 23%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

1 1) キノンドー粒剤 (有機銅 15%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、容容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

1 2) バッチレート (有機銅 5%)

- 水産動植物 (魚類) に影響を及ぼす恐れがあるが、この登録に係る使用方法では問題ない。
- 容器の洗浄水、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

1 3) オキシラン水和剤 (キャプタン 20%、有機銅 30%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

1 4) キンセット水和剤 (有機銅 30%、水酸化第二銅 10%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、容容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

1 5) キンセット水和剤 80 (有機銅 60%、水酸化第二銅 20%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、容容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

16) ビオネクト (有機銅 30%、脂肪酸グリセリド 55%)

- (1) 水産動植物 (魚類) に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物 (甲殻類、藻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

V. 残留性

1. 作物残留性試験

(1) 分析法の原理と操作概要

① 昭和54年9月26日告示の環境庁の分析法

磨砕した試料をアセトンで抽出後、水蒸気蒸留によって8-ヒドロキシキノンを留出させ、p-ニトロベンゼンジアゾニウム塩を加え発色させる。この発色液の555nmにおける吸光度を測定し定量する。

② 昭和59年10月31日告示の環境庁の分析法

磨砕した試料をアセトンで抽出後、水蒸気蒸留によって8-ヒドロキシキノリンを捕集し、硝酸アルミニウム含有のHPLC溶離液中でアルミニウムキレートを生成させ、380nmで励起した時の蛍光を520nmで測定し定量する。

(2) 分析対象の化合物

化学名 : 8-ヒドロキシキノリン銅

分子式 : $C_{16}H_{12}CuN_2O_2$

分子量 : 351.83

代謝経路図中の記号 : [A]

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(3) 残留試験結果 (小麦) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
小麦 (露地) (種子/外皮 を除く) 昭和57年	水和剤 (有機銅:50%) 250倍 1000/10a 散布	北海道十勝農試 (ホシコムギ)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
			1	258	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
		北海道北見農試 (チホコムギ)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
			2	246	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04			
小麦 (露地) (子実) 昭和57年度	水和剤(80%) 400倍 1200/10a 散布	北海道中央農試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			5	59	<0.01	<0.01	0.01	0.01			
			6	52	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
		北海道植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	60	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			5	54	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
小麦 (種子) 昭和55年度	水和剤(40%) 種子消毒1回 + 200倍散布2回 1500/10a	山形農試・最上 (ナブコムギ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	215	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	215	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	215	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
	水和剤(40%) 種子消毒1回 + 200倍散布2回 2500/10a	新潟農試 (モチホ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	199	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	199	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			3	199	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01			
			小麦 (青刈り) 昭和55年度	水和剤(40%) 種子消毒1回 + 200倍散布2回 1500/10a	山形農試・最上 (ナブコムギ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
						3	169	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
3	169	<0.04				<0.04	<0.01	<0.01			
3	169	<0.04				<0.04	<0.01	<0.01			
水和剤(40%) 種子消毒1回 + 200倍散布2回 2500/10a	新潟農試 (モチホ)	0	—	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01				
		3	165	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01				
		3	165	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01				
		3	165	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(栽培形態) (分析部位) 年度	(有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	場所 (品種)	公的分析機関				社内分析機関	
			8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅			
			最高値	平均値	最高値	平均値		
小麦 (露地) (種子) 昭和56年度	水和剤(80%) 400倍 2000/10a 散布	北海道中央 (和刈) * + ^h ノV 400倍	0	—			<0.01	<0.01
			1	226			<0.01	<0.01
			1*	226			<0.01	<0.01
小麦 (露地) (青刈り) 昭和56年度	水和剤(80%) 400倍 2000/10a 散布	岩手農試 (ハチマノムキ [®])	0	—			<0.01	<0.01
			1	184			<0.01	<0.01
			1*	184			<0.01	<0.01
小麦 (露地) (種子) 昭和56年度	水和剤(80%) 400倍 2000/10a 散布	岩手農試 (ハチマノムキ [®])	0	—			<0.01	<0.01
			2	175			<0.01	<0.01
			0	—			<0.01	<0.01
小麦 (露地) (青刈り) 昭和56年度	水和剤(80%) 400倍 2000/10a 散布	岩手農試 (ハチマノムキ [®])	2	205			<0.01	<0.01
			2	205			<0.01	<0.01
小麦 (露地) (青刈り) 昭和63年度	水和剤(10%) 種子消毒	アグロカネショウ (農林61号)	0	—			<0.01	<0.01
		10倍液5%吹き付け	1	131			<0.01	<0.01
		10倍液浸漬	1	131			<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(小 麦) - 3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
小麦 (露地) (種子) 昭和63年度	水和剤 (60%) 湿粉衣 (1%) 1回 + 150倍散布2回 150ℓ/10a	北海道中央農試 (チカコキ*) * 2回目散布時に ペタンV 200倍加用	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	253	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3*	253	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	水和剤 (60%) 湿粉衣 (1%) 1回 + 150倍散布2回 150ℓ/10a	福島農試・会津 (ワカヅキ*) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	208	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2*	208	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
小麦 (露地) (青刈り) 昭和63年度	水和剤 (60%) 湿粉衣 (1%) 1回 + 150倍散布2回 150ℓ/10a	北海道中央農試 (チカコキ*) * 2回目散布時に ペタンV 200倍加用	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	225	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3*	225	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	水和剤 (60%) 湿粉衣 (1%) 1回 + 150倍散布1回 150ℓ/10a	福島農試・会津 (ワカヅキ*) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	161	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2*	161	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
小麦 (露地) (種子) 平成2年度	水和剤 (60%) 150・300倍 120ℓ/10a 散布	青森農試 (キカミコキ*) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	79	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5*	79	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	水和剤 (60%) 150・300倍 120ℓ/10a 散布	岩手農試 (キカミコキ*) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	84	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5*	84	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(小 表) - 4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
小麦 (露地) (種子) 平成5年度	水和剤 (60%) 150・300倍 1200/10a 散布	北海道北見農試 (オホホロキ) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	63	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5*	63	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
		長野植防・松代 (シラネホシ) * +ペタンV 200倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5*	60	0.02	0.02	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(大 麦) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
大 麦 (露 地) (種 子) 昭和 56 年度	水和剤 (80%) 400 倍 200ℓ/10a 散 布	新潟農試 (ミノムギ)	0	—			<0.01	<0.01
			2	154			<0.01	<0.01
大 麦 (露 地) (青刈り) 昭和 63 年度	水和剤 (40%) 種子消毒	アグロカネショウ (農林 61 号) 10 倍液 5% 吹き付け 10 倍液 浸漬	0	—			<0.01	<0.01
			1	131			<0.01	<0.01
			1	131			<0.01	<0.01
大 麦 (露 地) (種 子) 平成 5 年度	水和剤 (60%) 150・300 倍 120ℓ/10a 散 布	岩手植防 (ペンケムギ) * 300 倍 + ペン V200 倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6*	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
		長野植防・松代 (ショライ) * 300 倍 + ペン V200 倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6*	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ばれいしょ) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成1年度	水和剤(80%) 1000倍 200, 210g/10a 散布	日植防研・牛久 (男爵)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	30	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	水和剤(80%) 1000倍 300g/10a 散布	日植防研・高知 (農林1号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	30	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成4年度	水和剤(50%) 600倍 85~200g/10a 散布	日植防研 (男爵)	0	—			<0.005	<0.005
			5	14			0.032	0.031
			5	21			0.032	0.028
			5	28			0.029	0.028
	水和剤(50%) 600倍 300g/10a 散布	群馬農総試・ 高冷地 (男爵)	0	—			<0.005	<0.005
			5	14			0.022	0.020
			5	21			0.031	0.029
			5	28			0.020	0.018
	水和剤(50%) 600倍 300g/10a 散布	日植防研・高知 (農林1号)	0	—			<0.005	<0.005
			5	14			0.005	0.005
			5	21			0.008	0.008
			5	28			0.012	0.009
水和剤(50%) 600倍 300g/10a 散布	長崎総農試・ 愛野 (ニシユカ)	0	—			0.009	0.009	
		5	14			0.032	0.032	
		5	21			0.012	0.012	
		5	28			0.009	0.008	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ばれいしょ) - 2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (塊根) 昭和57年度	水和剤(50%) 1000倍 625~1125g/10a 散布	長野植防 (メーキン)	0	—	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			4	7	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			4	14	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
	水和剤(50%) 1000倍 200g/10a 散布	埼玉植防 (男爵)	0	—	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			4	7	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			4	14	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
ばれいしょ (露地) (塊根) 昭和63年度	水和剤(30%) 500倍 100g/10a 散布	北海道植防 (男爵)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	30	0.02	0.02	0.02	0.02
			3	44	0.02	0.02	<0.02	<0.02
	水和剤(30%) 500倍 200g/10a 散布	長野農総試 (男爵)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	30	0.02	0.02	0.02	0.02
			3	44	0.02	0.02	0.02	0.02
ばれいしょ (露地) (塊根) 平成7年度	水和剤(60%) 700倍 150g/10a 散布	北海道農試 (男爵) * +50倍浸漬 (発芽前)	0	—			<0.01	<0.01
			5	14			0.01	0.01
			5*	14			0.02	0.02
	水和剤(60%) 700倍 300g/10a 散布	群馬園試・高冷地 (男爵) * +50倍浸漬 (発芽前)	0	—			<0.01	<0.01
			5	14			0.01	0.01
			5*	14			<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ばれいしょ) -3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (塊根) 平成21年度	水和剤 (50%)※ 600倍 160、1800/10a 散布	日植防研・高知 (デジマ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	水和剤 (50%)※ 600倍 2000/10a 散布	鹿児島農業環境 協会 (ニシユタカ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

※ 有機銅 50.0%+柑リニク酸 10.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ながいも) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ながいも (露地) (塊根) 昭和53年度	水和剤(40%) 500倍 200~300g/10a 散布	青森畑作園試 (在来種)	0	—	<0.04	<0.04	<0.003	<0.003
			5	3	<0.04	<0.04	0.01	0.01
			5	7	<0.04	<0.04	0.011	0.01
			5	14	<0.04	<0.04	0.011	0.009
	水和剤(40%) 500倍 250g/10a 散布	長野農総試 (在来種)	0	—	<0.04	<0.04	<0.003	<0.003
			5	3	<0.04	<0.04	0.013	0.012
			5	7	<0.04	<0.04	0.007	0.006
			5	14	<0.04	<0.04	0.009	0.007
やまいも (露地) (塊根) 平成11年度	フロアブル (35%) 600倍 300g/10a 散布	青森畑作園試 (在来種)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	8	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	フロアブル (35%) 500倍 200g/10a 散布	日植防・牛久 (かた)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	7	<0.005	<0.005	0.006	0.006
			5	14	<0.005	<0.005	0.007	0.007
			5	21	<0.005	<0.005	0.010	0.010

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(こんにゃくいも) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
こんにゃく いも (露地) (可食部) 昭和48年	水和剤 (有機銅:40%) 500倍 3500/10a 散布	長野農試 下伊那分場 (在来種)	0	—			0.031	0.028
			8	28			0.047	0.037
			12	28			0.075	0.068
	水和剤 (有機銅:40%) 500倍 1500/10a 散布	福島園試 (在来種)	0	—			0.029	0.028
			8	17			0.053	0.050
			12	17			0.066	0.063
こんにゃく いも (露地) (球茎) 平成4年度	水和剤(50%) 800倍 2000/10a 散布	福島植防 (在来種)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		群馬防除所 (あかぎおおだま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			8	35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
こんにゃく いも (露地) (球茎) 昭和47年度	水和剤(40%) 500倍 1500/10a 散布	群馬県農試・渋川 (在来種)	0	—			0.026	0.023
			4	30			0.026	0.021
			8	46			0.025	0.021
	水和剤(40%) 500倍 3500/10a 散布	長野農試・下伊那 (在来種)	0	—			0.020	0.019
			4	27			0.022	0.019
			8	27			0.023	0.021
こんにゃく いも (露地) (球茎) 平成3年度	水和剤(40%) 400倍 2000/10a 散布	福島植防 (在来種3年生) *+アガカド 200倍	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			8	30	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			8*	30	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
		群馬病害虫防除所 (はるなくろ) *+アガカド 200倍	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			8	30	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			8*	30	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(だいこん) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
だいこん (露地) (根部) 平成8年度	水和剤(50%) 800倍 300g/10a 散布	新潟高冷地 農技センター (T-340)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	0.06	0.06	0.01	0.01
			3	21	0.05	0.05	0.07	0.07
			3	28	0.02	0.02	0.01	0.01
		岐阜植防 (耐病総太り)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 平成8年度	水和剤(40%) 500倍 200g/10a 散布	新潟高冷地 農技センター (T-340)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	6.25	6.24	4.76	4.72
			3	21	2.73	2.63	2.44	2.40
			3	28	0.82	0.82	0.45	0.44
		岐阜植防 (耐病総太り)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	1.55	1.54	0.99	0.98
			3	21	0.10	0.10	0.21	0.21
			3	28	0.02	0.02	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 昭和52年度	水和剤(40%) 500倍 200g/10a 散布	神奈川園試 (三浦都)	0	—	0.02	0.02	<0.004	<0.004
			5	7	23.90	23.90	32.600	32.000
			5	14	4.36	4.32	16.500	16.400
		岐阜農試 (春蒔みの早生)	0	—	0.02	0.02	<0.004	<0.004
			5	7	10.20	10.20	13.400	13.000
			5	14	4.03	4.00	4.330	4.300
	水和剤(40%) 500倍 144~200g/10a 散布	5	21	0.23	0.22	0.167	0.165	
		神奈川園試 (三浦都)	0	—	<0.05	<0.05	<0.004	<0.004
			5	7	<0.05	<0.05	0.010	0.010
			5	14	<0.05	<0.05	<0.004	<0.004
		岐阜農試 (春蒔みの早生)	5	21	<0.05	<0.05	<0.004	<0.004
			0	—	<0.05	<0.05	<0.004	<0.004
5	7		0.07	0.07	0.047	0.045		
水和剤(40%) 500倍 144~200g/10a 散布	5	14	0.08	0.08	0.019	0.018		
	5	21	0.05	0.05	<0.004	<0.004		

網掛けは、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(だいこん) -2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
だいこん (露地) (葉部) 昭和62年度	水和剤(30%) 400倍 2500/10a 散布	日植防研・牛久 (夏みの早生 3号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			3	7	0.71	0.71	0.49	0.48
			3	14	0.3	0.28	0.18	0.16
			3	21	0.07	0.06	0.05	0.05
		日植防研・高知 (夏みの早生 3号)	0	—	<0.05	<0.05	0.04	0.04
			3	7	4.21	4.21	3.64	3.59
			3	14	1.32	1.3	0.39	0.39
			3	21	0.25	0.24	0.17	0.15
だいこん (露地) (根部) 昭和62年度	水和剤(30%) 400倍 2500/10a 散布	日植防研・牛久 (夏みの早生 3号)	0	—	<0.05	<0.05	0.11	0.11
			3	7	<0.05	<0.05	0.11	0.1
			3	14	<0.05	<0.05	0.19	0.16
			3	21	<0.05	<0.05	0.12	0.1
		日植防研・高知 (夏みの早生 3号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			3	7	<0.05	<0.05	0.09	0.08
			3	14	<0.05	<0.05	0.09	0.08
			3	21	<0.05	<0.05	0.12	0.11
だいこん (露地) (葉部) 平成5年度	水和剤(60%) 1000倍 48~1670/10a 散布	日植防研・牛久 (夏みの早生 3号)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			3	14	0.14	0.14	0.16	0.16
			3	21	0.02	0.02	0.01	0.01
			3	30	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
	水和剤(60%) 1000倍 2500/10a 散布	新潟高冷地 (涼太)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			3	14	0.56	0.55	0.57	0.51
			3	21	0.05	0.05	0.11	0.10
			3	30	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 平成7年度	水和剤(60%) 1000倍 2500/10a 散布	福島植防 (耐病緒太り)	0	—			<0.01	<0.01
			3	7			7.95	7.84
			3	14			0.86	0.82
			3	21			0.29	0.28
		石川植防 (青首総太り)	0	—			<0.01	<0.01
			3	7			1.68	1.65
			3	14			0.47	0.46
			3	21			0.12	0.12

網掛は、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(はくさい) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
はくさい (露地) (可食部) 昭和56年度	水和剤(50%) 500倍 200g/10a 散布	長野中信農試 (耐病60日ハクサイ)	0	—	0.06	0.06	<0.03	<0.03
			5	15	2.55	2.52	1.45	1.36
			5	22	1.00	0.92	0.62	0.62
			5	31	0.17	0.16	0.14	0.14
			5	49	0.10	0.08	<0.03	<0.03
		日植防研 (玉杯)	0	—	0.05	0.05	0.04	0.04
			5	14	0.25	0.23	0.17	0.16
			5	21	0.22	0.22	0.18	0.18
			5	30	0.24	0.22	0.08	0.08
			5	45	0.07	0.07	<0.03	<0.03
はくさい (露地) (茎葉) 平成2年度	水和剤(50%) 600倍 130, 150, 200 g/10a 散布	日植防研・牛久 (あこがれ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	2.00	1.94	0.94	0.88
			4	14	0.29	0.28	0.92	0.92
			4	21	0.17	0.16	0.32	0.30
			4	28	0.06	0.06	0.10	0.10
	水和剤(50%) 600倍 200g/10a 散布	長野植防・須坂 (良慶)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	1.51	1.43	1.10	1.10
			4	14	<0.05	<0.05	0.10	0.10
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
はくさい (露地) (茎葉) 平成4年度	フロアブル (35%) 800倍 200g/10a 散布	岩手園試・高冷地 (CR新黄)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	2.25	2.24	1.59	1.55
			5	21	0.73	0.72	0.22	0.20
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		長野営農技センター (郷風)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.11	0.11	<0.01	<0.01
			5	21	0.08	0.08	0.01	0.01
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	35	0.01	0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(はくさい) - 2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
はくさい (露地) (茎葉) 昭和46年度	水和剤(40%) 600倍 1800/10a 散布	長野園試 (長岡交配 60日)	0	—			<0.05	<0.05
			3	15			<0.05	<0.05
			3	31			<0.05	<0.05
			5	15			<0.05	<0.05
			5	31			<0.05	<0.05
		大阪農技センター (高濃交配耐病 省力3号)	0	—			<0.05	<0.05
			3	15			<0.05	<0.05
			5	15			0.10	0.08
			5	30			<0.05	<0.05
はくさい (露地) (茎葉) 平成2年度	フロアブル (35%) 600倍 2000/10a 散布	長野中信農試 (空海65)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	16	0.05	0.05	0.06	0.05
			5	30	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		5	45	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
		石川植防 (耐病60日)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	14	<0.05	<0.05	0.10	0.10
	5		28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
	フロアブル (35%) 1000倍 2000/10a 散布	長野中信農試 (空海65)	5	16			<0.05	<0.05
			5	30			<0.05	<0.05
			5	45			<0.05	<0.05
		石川植防 (耐病60日)	5	14			0.11	0.10
			5	28			<0.05	<0.05
5			30			<0.05	<0.05	
はくさい (露地) (茎葉) 平成7年度	水和剤(60%) 900倍 2000/10a 散布	岩手植防 (松島交配春秋)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.91	0.9	0.14	0.13
			5	21	0.13	0.12	0.09	0.09
			5	30	0.03	0.03	0.05	0.05
		新潟高冷地農技センター (弘法)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.11	0.1	0.02	0.02
			5	21	0.05	0.05	<0.01	<0.01
			5	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(キャベツ) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
キャベツ (露地) (葉球) 平成6年度	水和剤 (50%)※ 600倍 2000/10a 散布	岩手園試・高冷地 (YR青春)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		千葉農試・東総 (YR秋早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.05	0.05	0.05	0.05	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
キャベツ (露地) (葉球) 平成7年度	フロアブル (35%) 500倍 3000/10a 散布	新潟高冷地 農技センター (やひこ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	フロアブル (35%) 800倍 3000/10a 散布	愛知農総試 (YRのどか)	3	14	0.05	0.04	<0.01	<0.01	
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	14	0.18	0.18	0.07	0.06
				3	21	0.05	0.04	<0.01	<0.01
フロアブル (35%) 800倍 3000/10a 散布	愛知農総試 (YRのどか)	3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		3	14	0.05	0.04	0.05	0.04		

※ 有機銅 50.0% + 持リニク酸 10.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(キャベツ) -2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
キャベツ (露地) (葉球) 昭和58年度	水和剤 (40%) 500倍 2000/10a 散布	日植防研 (未広)	0	—	0.05	0.05	0.08	0.07
			3	14	0.14	0.14	0.36	0.35
			3	21	0.16	0.15	0.18	0.18
			3	30	0.08	0.07	0.16	0.16
	水和剤 (40%) 500倍 140~2000/10a 散布	日植防研・高知 (秋蒔極早生 2号)	0	—	<0.05	<0.05	0.03	0.02
			3	14	0.13	0.12	0.24	0.24
			3	21	<0.05	<0.05	0.24	0.24
			3	28	<0.05	<0.05	0.17	0.16
キャベツ (露地) (葉球) 昭和61年度	水和剤 (40%) 500倍 2000/10a 散布	日植防研 (未広)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	0.05	0.05	0.15	0.14
		千葉農試・東野 (金系201号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
キャベツ (露地) (葉球) 平成2年度	フロアブル (35%) 800倍 140~2000/10a 散布	日植防研・牛久 (未広)	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	0.12	0.12	<0.05	<0.05
			3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
	フロアブル (35%) 800倍 2000/10a 散布	長野植防・須坂 (YRSE)	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	0.05	0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
キャベツ (露地) (葉球) 平成12年度	水和剤 (40%) ※ 500倍 3500/10a 散布	日植防研 (金系201号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	0.11	0.11	0.10	0.10
			3	21	0.04	0.04	0.04	0.04
		長野農総試 (YRSE)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	0.25	0.25	0.17	0.16
			3	21	0.03	0.03	0.04	0.04

※ 有機銅 40.0% + ストレプトマイシン硫酸塩 5.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ブロccoli) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ブロッコリー (露地) (花蕾) 平成5年度	水和剤(80%) 1000倍 3000/10a 散布	長野農総試 (ハイツ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	1.11	1.10	2.08	2.06
			3	14	0.65	0.64	1.01	1.00
			3	21	0.24	0.24	0.37	0.35
	水和剤(80%) 1600倍 3000/10a 散布	長野農総試 (ハイツ)	3	7	1.07	1.06	1.23	1.22
			3	14	0.24	0.24	0.30	0.29
	水和剤(80%) 1000倍 1500/10a 散布	愛知農総試・ 園芸研 (緑嶺)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.66	0.66	1.34	1.33
			3	14	0.83	0.83	1.00	1.00
			3	21	0.55	0.54	0.67	0.66
水和剤(80%) 1600倍 1500/10a 散布	愛知農総試・ 園芸研 (緑嶺)	3	7	0.53	0.52	2.98	2.90	
		3	14	0.53	0.52	0.52	0.51	
ブロッコリー (露地) (花蕾) 平成7年度	水和剤(80%) 1000倍 2500/10a 散布	岩手植防 (緑嶺)	0	—			<0.01	<0.01
			3	14			0.62	0.62
			3	21			0.04	0.04
	水和剤(80%) 1600倍 2500/10a 散布	岩手植防 (緑嶺)	3	14			0.25	0.24
			3	21			0.03	0.03
	水和剤(80%) 1000倍 3000/10a 散布	長野植防 (緑嶺)	0	—			<0.01	<0.01
			3	14			0.01	0.01
			3	21			<0.01	<0.01
水和剤(80%) 1600倍 3000/10a 散布	長野植防 (緑嶺)	3	14			0.01	0.01	
		3	21			<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ブロッコリー) -2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ブロッコリー (露地) (花蕾) 昭和58年度	水和剤(40%) 600倍 150ℓ/10a 散布	鳥取農試 (シスター)	3	14	<0.03	<0.03		
			3	21	<0.03	<0.03		
			4	14	<0.03	<0.03		
			4	21	<0.03	<0.03		
			5	14	<0.03	<0.03		
			5	21	<0.03	<0.03		
			6	14	<0.03	<0.03		
			6	21	<0.03	<0.03		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(レタス) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (露地) (可食部) 昭和52年度	水和剤 (10%)※ 400倍 2000/10a 散布	長野野菜花き試	0	—	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
			5	14	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
			5	21	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
			5	28	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
		日植防四国地区 連絡所	0	—	<0.04	<0.04	0.03	0.03
							? <0.02	? <0.02
			5	14	1.12	1.12	1.16	1.11
			5	21	0.22	0.21	0.42	0.41
			5	28	0.12	0.12	0.20	0.18
レタス (施設) (茎葉) 平成3年度	水和剤(50%) 1000倍 1500/10a 散布	岩手園試・高冷地 (サクラメント)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	3.36	3.34	5.74	5.72
			5	14	0.84	0.84	0.90	0.88
			5	21	0.06	0.06	0.06	0.06
レタス (施設) (茎葉) 平成4年度	水和剤(50%) 1000倍 2500/10a 散布	長野植防・南信 (シズカ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	2.12	2.11	0.25	0.22
			5	14	1.29	1.28	0.61	0.58
			5	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

※ 有機銅 10% + 塩基性硫酸銅 29%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(レタス) -2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (施設) (茎葉) 平成5年度	水和剤(80%) 1200倍 2000/10a 散布	長野営農枝シケ- (長野15号)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.54	0.53	0.85	0.84
			5	28	0.02	0.02	0.66	0.57
	水和剤(80%) フロアブル(35%) 水和剤1200倍 フロアブル800倍 2000/10a 散布		4+1	14	0.24	0.24	0.35	0.34
			4+1	28	<0.01	<0.01	0.16	0.14
			※					
	フロアブル(35%) 800倍 2000/10a 散布		5	14	0.12	0.12	0.20	0.20
			5	28	0.02	0.02	0.03	0.02
	水和剤(80%) 1200倍 1500/10a 散布	日植防研・高知 (シスコ)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	0.32	0.32	0.12	0.12
			5	28	0.02	0.02	0.02	0.02
	水和剤(80%) フロアブル(35%) 水和剤1200倍 フロアブル800倍 1500/10a 散布		4+1	14	0.61	0.60	0.83	0.80
			4+1	28	0.02	0.02	0.01	0.01
			※					
フロアブル(35%) 800倍 1500/10a 散布	5	14	0.26	0.26	0.20	0.20		
	5	28	<0.01	<0.01	0.01	0.01		

※ 水和剤4回後フロアブル1回散布

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(レタス) -3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
レタス (露地) (茎葉) 昭和63年度	水和剤(34%) 500倍 2000/10a 散布	長野植防・須坂 (オリーブ)	0	—	0.01	0.01	0.01	0.01		
			5	21	0.01	0.01	0.02	0.02		
			5	30	0.01	0.01	0.02	0.02		
			5	45	0.01	0.01	0.01	0.01		
		静岡農試 (カイザー)	0	—	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
			5	21	0.70	0.70	0.70	0.70		
			5	30	0.52	0.48	0.34	0.33		
			5	45	0.14	0.14	0.13	0.12		
		レタス (露地) (茎葉) 平成2年度	水和剤(34%) 500倍 2000/10a 散布	日植防研・宮崎 (菊川7号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					5	21	0.29	0.28	0.18	0.18
					5	29	0.20	0.20	0.09	0.08
				トモノ農薬・生物研 (グレートレックス)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
5	21				0.02	0.02	0.04	0.04		
5	30				0.02	0.01	<0.01	<0.01		
レタス (露地) (茎葉) 平成2年度	フロアブル (35%) 800倍 90~2000/10a 散布			日植防研・牛久 (シスコ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					5	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		5	30		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
		5	45		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	フロアブル (35%) 800倍 2000/10a 散布	長野農事試・原村 (オリーブ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	30	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	45	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
		日植防研・牛久 (シスコ)	5	21			<0.05	<0.05		
			5	30			<0.05	<0.05		
			5	45			<0.05	<0.05		
			長野農事試・原村 (オリーブ)	5	21			<0.05	<0.05	
5	30				<0.05	<0.05				
5	45				<0.05	<0.05				

(レタス) -4

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (露地) (茎葉) 平成2年度	水和剤(40%) 750倍 2000/10a 散布	日植防研・牛久 (シスコ)	0	—	<0.04	<0.04		
			2	7	0.94	0.94		
		長野植防・南信 (カルマー)	0	—	<0.04	<0.04		
			2	7	<0.04	<0.04		
レタス (露地) (茎葉) 平成2年度	フロアブル (35%) 800倍 2000/10a 散布	日植防研・牛久 (シスコ)	0	—	<0.04	<0.04		
			2	7	1.11	1.07		
		長野植防・南信 (カルマー)	0	—	<0.04	<0.04		
			2	7	<0.04	<0.04		
レタス (露地) (茎葉) 平成5年度	水和剤(34%) 500倍 2000/10a 散布	岩手園試 (テキサスグリーン)	0	—			<0.05	<0.05
			5	14			<0.05	<0.05
			5	21			<0.05	<0.05
		長野植防 (シナグリーン)	0	—			<0.05	<0.05
5	14				0.05	0.05		
5	21				<0.05	<0.05		
レタス (露地) (茎葉) 平成6年度	水和剤(80%) 1200倍4回+ フロアブル(35%) 800倍1回 2000/10a 散布	長野農事試・原村 (シキター)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.04	0.04	0.17	0.17
			5	14	0.05	0.04	0.05	0.05
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		香川農試 (シスコ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
レタス (露地) (茎葉) 平成6年度	水和剤(60%) 900倍 2000/10a 散布	徳島植防 (シスコ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.13	0.13	0.12	0.12
			5	14	0.22	0.22	0.07	0.07
			5	21	0.09	0.08	0.03	0.03
		日植防研・宮崎	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.74	0.74	0.38	0.37
			5	14	0.70	0.70	0.34	0.33
			5	21	0.05	0.04	0.08	0.08

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(非結球レタス) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
リーフレタス (露地) (茎葉) 平成17年度	フロアブル (35%) 800倍 100~3000 /10a 散布	宮城植防 (レッドファイヤー)	0	—			<0.05	<0.05
			5	7			18.1	17.8
			5	14			0.46	0.42
			5	21			<0.05	<0.05
			5	28			<0.05	<0.05
	大分肥料植防 (レッドファイヤー)	0	—			<0.05	<0.05	
		5	7			22.4	21.8	
		5	14			10.6	10.6	
		5	21			3.20	3.10	
		5	28			0.40	0.40	
チカラ菜 (施設) (茎葉) 平成17年度	フロアブル (35%) 800倍 100~3000 /10a 散布	岐阜植防 (岡山チカラ菜)	0	—			<0.05	<0.05
			5	7			38.8	38.2
			5	14			23.3	23.0
			5	21			2.53	2.49
			5	28			0.36	0.34
	愛知農総試 (岡山チカラ菜)	0	—			<0.05	<0.05	
		5	7			14.3	14.0	
		5	14			1.96	1.94	
		5	21			0.12	0.12	
		5	28			<0.05	<0.05	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(たまねぎ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成2年度	水和剤(50%) 600倍 200ℓ/10a 散布	日植防研・高知 (OK黄)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	13	0.11	0.10	<0.05	<0.05			
			4	22	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	28	0.05	0.05	<0.05	<0.05			
		日植防研・宮崎 (改良秀玉1号)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	13	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
たまねぎ (露地) (鱗茎) 昭和51年度	水和剤(40%) 600倍 200ℓ/10a 散布	静岡農試 (貝塚早生)	0	—	<0.04	<0.04	<0.006	<0.006			
			3	3	<0.04	<0.04	<0.006	<0.006			
			3	7	<0.04	<0.04	<0.006	<0.006			
			3	14	<0.04	<0.04	<0.006	<0.006			
		兵庫農試 (もみじ)	0	—	<0.04	<0.04	0.006	0.003			
			3	3	<0.04	<0.04	0.022	0.019			
			3	7	<0.04	<0.04	0.011	0.009			
			3	14	<0.04	<0.04	0.008	0.004			
			たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成4年度	水和剤(60%) 900倍 158~225ℓ/10a 散布	日植防研・牛久 (OL黄) * +ペタンV 5ml/ℓ	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
3	21	<0.02				<0.02	<0.02	<0.02			
3*	14	<0.02				<0.02	<0.02	<0.02			
3*	21	<0.02				<0.02	<0.02	<0.02			
水和剤(60%) 900倍 200ℓ/10a 散布	日植防研・宮崎 (改良秀玉) * +ペタンV 200倍	0		—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
		3		14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
		3		21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
		3*		14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
		3*		21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ねぎ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
ねぎ (露地) (茎葉) 昭和53年度	水和剤(50%) 600倍 200g/10a 散布	群馬園試 (石倉)	0	—	0.06	0.06	<0.04	<0.04	
			5	1	1.52	1.48	2.56	2.36	
			5	3	0.82	0.81	0.89	0.89	
			5	7	0.68	0.62	0.74	0.73	
			10	1	2.08	2.00	2.72	2.68	
			10	3	1.01	0.98	1.85	1.84	
			10	7	0.77	0.72	0.80	0.77	
		鳥取野菜試 (改良伯州2号)	0	—	<0.04	<0.04	0.05	0.04	
			5	1	0.81	0.74	1.90	1.77	
			5	3	0.27	0.26	0.68	0.67	
			5	7	0.15	0.14	0.36	0.30	
			10	1	1.00	0.97	1.96	1.88	
			10	3	0.99	0.95	1.79	1.72	
			10	7	0.12	0.11	0.38	0.36	
ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年度	水和剤 (30%)※ 600倍 200g/10a 散布	新潟植防 (元蔵)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	14	0.32	0.32	0.28	0.28	
			5	21	0.06	0.06	0.12	0.12	
			5	28	0.02	0.02	0.01	0.01	
	水和剤※ (30%)※ 600倍 179/10a 散布	日植防研 宮崎 (和什ター)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	14	0.26	0.26	0.26	0.26	
			5	21	0.10	0.10	0.13	0.12	
			5	28	0.04	0.04	0.05	0.05	
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平成7年度	水和剤(50%) 500倍 10分間 植付時浸漬 1回 +	三重農技セ (小夏)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			6	7	0.12	0.12	0.10	0.10	
			6	14	0.02	0.02	0.03	0.03	
		6	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		1000倍 300g/10a 茎葉散布 5回	日植防研 高知 (夏ねぎ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				6	7	1.63	1.62	2.42	2.42
	6			14	0.18	0.18	0.23	0.22	
	6			21	<0.01	<0.01	0.01	0.01	

※ 有機銅 30.0%+キア⁷ 20.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(にんにく)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
にんにく (露地) (鱗茎) 平成9年度	水和剤(60%) 1000倍 2000/10a 散布	青森畑作園試 (福地村)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		香川農試 (上海早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			5	14	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
にんにく (露地) (鱗茎) 平成13年度	水和剤(50%) 800倍 3000 /10a 散布	青森農試 (福地村)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		岩手農試 (福地村)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	19	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(アスパラガス)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
アスパラガス (露地) (若茎) 平成5年度	フロアブル (35%) 600倍 500g/10a 散布	長野植防・須坂 (メー・ワシントン) *+ペタンV 200倍	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	218	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5*	218	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		石川農短大 (メー・ワシントン) *+ペタンV 200倍	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	312	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5*	312	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
アスパラガス (施設) (若茎) 平成20年度	フロアブル (35%) 600倍 200g/10a 散布	北海道植防 (ウエルカム)	0	—			<0.01	<0.01
			5	3			0.25	0.25
			5	7			<0.01	<0.01
			5	14			<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 600倍 300g/10a 散布	長野植防・南信 (ウエルカム)	0	—			<0.01	<0.01
			5	3			0.47	0.46
			5	7			0.01	0.01
			5	14			<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(食用ゆり)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
食用ゆり (露地) (鱗片) 平成3年度	水和剤(80%) 50倍 1200/10a 植付前瞬間浸漬	北海道上川農試 (白銀) * 25倍浸漬	0	—	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
			1	146	0.011	0.010	<0.05	<0.05
			1*	146	0.077	0.074	0.06	0.06
食用ゆり (露地) (鱗片) 平成3年度	水和剤(80%) 50倍 1200/10a 植付前瞬間浸漬	長野植防・松代 (品種不詳) * +1000倍 1200/10a 5回散布	0	—	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
			1	177	0.011	0.010	<0.05	<0.05
			6*	30	0.010	0.010	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(にんじん)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
にんじん (露地) (根部) 平成6年度	フロアブル(35%) 600倍 150g/10a 散布	新潟高冷地農技 センター (向陽2号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		香川農試 (金時)	0	—	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			5	3	0.11	0.1	0.09	0.08
			5	7	0.06	0.06	0.03	0.02
			5	13	0.03	0.03	0.03	0.03

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(パセリ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
パセリ (露地) (茎葉) 昭和59年度	粒剤(10%) 20kg/10a 散布	静岡農試・引佐 (パラムント浜松系) * 秋処理 ** 春処理+秋処理	0	—	<0.08	<0.08		
			1	165	<0.08	<0.08		
			1*	81	0.09	0.09		
			2**	81	0.11	0.1		
		静岡農試・浜松 (パラムント浜松系) * 秋処理 ** 春10kg+秋20kg	0	—	<0.08	<0.08		
			1*	78	0.09	0.09		
			2**	78	0.09	0.08		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(トマト)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
トマト (露地) (可食部) 昭和48年	水和剤 (有機銅:30%) 400倍 1800/10a 散布	愛知農総試 (耐病性FR)	0	—			<0.02	<0.02
			5	3			0.17	0.16
			5	7			0.03	0.03
			5	14			0.02	0.02
トマト (施設) (可食部) 昭和48年	水和剤 (有機銅:30%) 400倍 2000/10a 散布	兵庫農試 (大型福寿)	0	—			<0.02	<0.02
			5	3			0.16	0.16
			5	7			0.06	0.06
			5	14			<0.02	<0.02
トマト (露地) (果実) 昭和51年度	水和剤(30%) 400倍 600~8000/10a 散布	長野農業大学 (大型福寿)	0	—	0.016	0.015	0.019	0.018
			5	1	0.185	0.184	0.143	0.142
			5	3	0.167	0.156	0.146	0.139
			5	7	0.169	0.148	0.143	0.137
			5	14	0.063	0.062	0.070	0.066
	水和剤(30%) 400倍 2500/10a 散布	静岡農試 (はごろも)	0	—	0.023	0.022	0.026	0.026
			5	1	0.717	0.681	0.710	0.705
			5	3	0.372	0.368	0.398	0.381
			5	7	0.220	0.212	0.305	0.304
			5	14	0.094	0.086	0.100	0.096
5	21	0.069	0.059	0.072	0.069			
トマト (施設) (果実) 平成21年度	水和剤 (30%)※ 400倍 3000/10a 散布	岩手植防 (桃太郎なつみ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	1.38	1.37	1.16	1.12
			5	3	1.64	1.62	1.44	1.42
		石川植防 (桃太郎はるか)	5	7	1.14	1.14	0.92	0.90
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	0.93	0.91	1.12	1.12
			5	3	0.97	0.96	0.79	0.79
			5	7	1.00	0.99	0.90	0.90

※ 有機銅 30.0%+キャプタン 20.0%

網掛は、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(きゅうり)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (施設) (果実) 昭和58年	水和剤 (有機銅:80%) 800倍 3000/10a 散布	日植防研 (ときわ3号P型)	0	—	0.02	0.02	0.03	0.03
			3	1	0.58	0.56	0.61	0.61
			3	3	0.40	0.39	0.44	0.44
			3	7	0.16	0.16	0.11	0.10
			5	1	0.48	0.46	0.43	0.43
			5	3	0.17	0.17	0.26	0.26
			5	7	0.13	0.13	0.15	0.14
	水和剤 (有機銅:80%) 800倍 2500/10a 散布	長野南信農試 (新節成キュウリ)	0	—	0.03	0.02	<0.03	<0.03
			3	1	0.66	0.65	0.79	0.78
			3	3	0.25	0.24	0.22	0.22
			3	7	0.10	0.10	0.12	0.12
			5	1	1.02	0.98	0.87	0.87
			5	3	0.37	0.36	0.37	0.37
			5	7	0.11	0.10	0.19	0.18
きゅうり (露地) (果実) 昭和58年	水和剤 (有機銅:80%) 800倍 3000/10a 散布	日植防研 (南極1号)	0	—	0.02	0.02	0.04	0.04
			3	1	0.48	0.46	0.67	0.64
			3	3	0.22	0.21	0.21	0.20
			3	7	0.08	0.08	0.06	0.06
			5	1	0.24	0.24	0.50	0.50
			5	3	0.15	0.14	0.19	0.18
			5	7	0.07	0.07	0.06	0.06
	水和剤 (有機銅:80%) 800倍 3000/10a 散布	鳥取野菜試 西伯分場 (黄金女神2号)	0	—	0.03	0.02	<0.03	<0.03
			3	1	0.71	0.70	0.70	0.70
			3	3	0.15	0.14	0.46	0.46
			3	7	0.06	0.06	0.04	0.04
			5	1	0.36	0.36	0.60	0.60
			5	3	0.56	0.55	0.35	0.35
			5	7	0.06	0.06	0.09	0.09

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(きゅうり)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (施設) (可食部) 昭和50年度	水和剤 (10%)※ 400倍 2500/10a 散布	千葉農試	0	—	0.08	0.08	0.03	0.03
			3	3	0.14	0.13	0.11	0.11
			3	7	0.18	0.17	0.06	0.06
	7		3	0.26	0.24	0.15	0.14	
	水和剤 (10%)※ 400倍 150, 200, 2500/10a 散布		7	7	0.18	0.18	0.10	0.10
きゅうり (露地) (可食部) 昭和50年度	水和剤 (10%)※ 400倍 4000/10a 散布	山梨農試	0	—	0.04	0.04	0.07	0.06
			3	3	0.10	0.10	0.13	0.12
			3	7	0.04	0.04	0.09	0.08
			5	3	0.06	0.06	0.17	0.16
			5	7	0.06	0.06	0.08	0.08
きゅうり (施設) (果実) 平成1年度	水和剤(50%) 600倍 2000/10a 散布	群馬農総試・ 東部分場 (シャープリン)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	0.16	0.16	0.36	0.36
			5	3	0.29	0.29	0.35	0.34
			5	6	0.23	0.23	0.13	0.12
	水和剤(50%) 1000倍 2000/10a 散布		5	1	0.47	0.46	0.28	0.28
			5	3	0.30	0.30	0.27	0.26
			5	6	0.20	0.19	0.16	0.16
	水和剤(50%) 600倍 2500/10a 散布	長野植防・南信 (シャープリン)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	0.55	0.51	0.57	0.55
			5	3	0.15	0.14	0.18	0.18
			5	7	<0.05	<0.05	0.14	0.13
			5	7	<0.05	<0.05	0.14	0.13
水和剤(50%) 1000倍 2500/10a 散布		5	1	0.15	0.14	0.18	0.18	
		5	3	0.06	0.06	0.14	0.13	
		5	7	<0.05	<0.05	0.07	0.06	

※ 有機銅10%+塩基性硫酸銅29%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(きゅうり)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (施設) (果実) 平成5年度	フロアブル (35%) 1000倍 3000/10a 散布	宮城植防 (シャープリン)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.39	0.38	0.33	0.31
			5	3	0.17	0.17	0.17	0.16
		長野植防・南信 (南極1号)	5	7	0.06	0.06	0.13	0.12
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.34	0.33	0.26	0.26
			5	4	0.20	0.20	0.16	0.16
5	7	0.08	0.08	0.12	0.11			
きゅうり (露地) (果実) 昭和48年度	水和剤(30%) 400倍 100~2500/10a 散布	静岡農試 (近成4葉)	0	—	0.03	0.02	0.03	0.02
			3	1	0.08	0.07	0.08	0.06
			3	3	<0.03	<0.03	0.18	0.15
			3	7	0.04	0.02	0.08	0.08
			3	14	<0.03	<0.03	0.03	0.02
			5	1	0.14	0.12	0.28	0.19
			5	3	<0.03	<0.03	0.18	0.16
		5	7	0.04	0.02	0.16	0.15	
		5	14	<0.03	<0.03	0.04	0.04	
		宮崎農総試 (F1長日落合2号)	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	3	0.05	0.05	0.10	0.10
			3	7	0.06	0.05	0.06	0.06
			3	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			5	3	0.07	0.06	0.13	0.12
5	7		0.09	0.09	0.05	0.05		
5	14		<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
きゅうり (露地) (果実) 昭和50年度	水和剤(40%) 800倍 1000/10a 散布	栃木農試 (新光A号)	0	—	0.04	0.04	0.015	0.012
			5	1	0.10	0.10	0.140	0.130
			5	3	0.08	0.07	0.088	0.078
			5	5	<0.04	<0.04	0.033	0.033
			5	10	<0.04	<0.04	0.020	0.020
		岐阜植防 (黄金半促成)	0	—	0.05	0.05	0.030	0.028
			5	1	0.15	0.14	0.130	0.126
			5	3	0.05	0.05	0.117	0.110
			5	5	<0.04	<0.04	0.054	0.046
			5	10	<0.04	<0.04	0.040	0.036

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(きゅうり)-4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (露地) (果実) 平成2年度	フロアブル(35%) 800倍 2000/10a 散布	埼玉植防 (シャープワン)	0	—	<0.04	<0.04		
			1	3	0.21	0.19		
		フロアブル 1050倍	1	3	0.12	0.10		
			5*	1	0.60	0.60		
		香川農試 (トップグリーン)	0	—	<0.04	<0.04		
			1	3	0.22	0.22		
	*フロアブル 1050倍 **フロアブル 2100倍	1*	3	0.32	0.30			
		5**	1	0.20	0.20			
	水和剤(40%) 750倍 2000/10a 散布	埼玉植防 (シャープワン)	0	—	<0.04	<0.04		
			1	3	0.19	0.18		
		水和剤 1000倍	1	3	0.24	0.23		
			香川農試 (トップグリーン)	0	—	<0.04	<0.04	
1	3	0.20	0.20					
1*	3	0.20	0.19					
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度	フロアブル (35%) 1200倍 70~3000/10a 散布	日植防研・牛久 (ときわ光3号P型)	0	—	0.005	0.005	<0.05	<0.05
			5	1	0.559	0.553	0.48	0.46
	フロアブル (35%) 1200倍 3000/10a 散布	日植防研・高知 (シャープワン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
			5	1	0.531	0.522	0.39	0.38
きゅうり (施設) (果実) 平成4年度	フロアブル(35%) 1200倍 2000/10a 散布	鯉淵学園 (青力節成5号)	0	—			<0.01	<0.01
			5	1			0.28	0.27
			5	3			0.22	0.21
			5	7			0.18	0.17
	長野植防・南信 (シャープ7号)	0	—			0.01	0.01	
		5	1			0.14	0.13	
		5	3			0.08	0.08	
		5	7			0.02	0.02	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(きゅうり)-5

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (施設) (果実) 平成7年度	水和剤(40%) 600倍3回+ フロアブル(35%) 1200倍2回 80~300g/10a 散布	日植防研・牛久 (トップグリーン)	0	—			<0.01	<0.01
			5	1			0.49	0.48
			5	3			0.22	0.21
			5	7			0.05	0.05
	水和剤(40%) 600倍3回+ フロアブル (35%) 1200倍2回 200g/10a 散布	日植防研・宮崎 (トップグリーン)	0	—			<0.01	<0.01
			5	1			0.24	0.23
			5	3			0.12	0.12
			5	7			0.06	0.06
きゅうり (施設) (果実) 平成8年度	水和剤(40%) 480倍3回+ フロアブル(35%) 1200倍2回 80~300g/10a 散布	日植防研・牛久 (シャープワン)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.29	0.27	0.48	0.45
			5	3	0.23	0.22	0.21	0.21
			5	7	0.05	0.05	0.04	0.04
	水和剤(40%) 480倍3回+ フロアブル (35%) 1200倍2回 200g/10a 散布	日植防研・高知 (シャープワン)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.42	0.4	0.45	0.42
			5	3	0.13	0.11	0.19	0.17
			5	7	0.07	0.07	0.07	0.06
きゅうり (露地) (果実) 平成20年度	水和剤(40%) 530倍 200~300g/10a 散布	岩手植防 (インパクト)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	0.85	0.82	1.06	1.06
			5	3	0.41	0.40	0.30	0.30
			5	7	0.07	0.07	<0.05	<0.05
	水和剤(40%) 530倍 300g/10a 散布	長野植防・南信 (夏すずみ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	1	1.30	1.30	0.78	0.78
			5	3	0.19	0.18	0.18	0.18
			5	7	0.05	0.05	<0.05	<0.05

網掛けは、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(かぼちゃ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
かぼちゃ (施設) (果実) 平成1年度	水和剤(40%) 600倍 2500/10a 散布	日植防研・牛久 (みやこ)	0	—			<0.05	<0.05
			3	7			0.55	0.55
			3	14			0.54	0.49
			3	21			0.34	0.34
	水和剤(40%) 800倍 3000/10a 散布	石川植防 (打木赤皮甘栗)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	1.15	1.14	0.56	0.54
			3	14	0.64	0.64	0.48	0.48
			3	21	0.26	0.26	0.46	0.45
かぼちゃ (施設) (果実) 平成20年度	水和剤(40%) 800倍 1500/10a 散布	三重植防 (坊ちゃん)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	0.63	0.63	0.57	0.56
			3	14	0.42	0.42	0.12	0.12
			3	21	0.43	0.42	0.09	0.08

網掛けは、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(すいか)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
すいか (露地) (果実) 平成5年度	フロアブル (35%) 500倍 3000/10a 散布	岩手農業短大 (伊吹)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			6	1	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			6	3	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			6	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 500倍 200,3000/10a 散布	長野植防・松代 (金山西瓜)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
すいか (露地) (果肉) 昭和46年度	水和剤(30%) 400倍 2000/10a 散布	宮崎農試 (こだま)	0	—			<0.05	<0.05
			3	10			0.10	0.90
			3	20			0.07	0.04
			3	30			0.05	0.03
			5	10			0.22	0.18
			5	20			0.29	0.19
			5	30			0.07	0.04
			0	—			<0.02	<0.02
			3	10			0.03	0.02
			3	20			0.02	0.01
			3	30			0.02	0.01
			5	10			0.05	0.02
5	20			0.05	0.03			
5	30			<0.02	<0.02			
すいか (露地) (果肉) 昭和48年度	水和剤(30%) 400倍 2000/10a 散布	愛知農総試 (旭都)	0	—			0.03	0.02
			3	7			0.03	0.02
			3	14			0.02	0.02
			5	7			0.02	0.02
			5	14			0.02	0.02
			0	—			0.1	0.09
			3	7			0.25	0.22
			3	14			0.09	0.08
			5	7			0.25	0.24
			5	14			0.18	0.16

(すいか)-2

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
すいか (施設) (果肉) 平成5年度	フロアブル (35%) 800倍 2500/10a 散布	日植防研・高知 (金時)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			5	10	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			5	14	<0.01	<0.01	0.01	0.01
	日植防研・宮崎 (早生天竜)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		5	7	0.01	0.01	0.04	0.04	
		5	10	<0.01	<0.01	0.03	0.02	
		5	14	<0.01	<0.01	0.02	0.02	
すいか (施設) (果実) 平成11年度	フロアブル (35%) 500倍 2000/10a 散布	福井植防 (紅大)	0	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.15	0.15	0.02	0.02
			5	3	0.10	0.10	0.03	0.02
			5	7	0.14	0.14	0.02	0.02
	日植防研・宮崎 (マダマホール)	フロアブル (35%) 500倍 2130/10a 散布	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	1	0.04	0.04	0.02	0.02
			5	3	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			5	7	0.05	0.05	<0.01	<0.01